

2024 年度

京都精華大学自己点検評価報告書

京都精華大学

2025 年 9 月

目 次

はじめに	p.-1
1. ビジョンにおける教育・研究の3大軸の進捗	p.-5
2. 内部質保証	
3. 教育課程・学習成果	p.-6
4. 学生の受け入れ	
5. 学生支援	p.-7
6. 大学運営	
7. 各部局別自己点検・報告書	別紙1

はじめに

【2024年度自己点検評価基本方針】

京都精華大学では、2022年度に受審した認証評価において内部質保証体制等に関する指摘を受けたことをふまえ、2023年度から学長直下の大学運営会議を内部質保証上の責任主体として設定し、全学的な自己点検評価活動に基づく学長指示による改善を主としたPDCAサイクルを回してきた。2024年度を終えて、内部質保証体制等に関する指摘事項の改善が確認できたことから、2025年7月末に改善報告書を認証評価機関に提出した。

これまでの一連の改善の取組の中で、自己点検評価の基本方針については、2023年度末に制定した京都精華大学内部質保証規程で以下の通り設定した。<https://www.kyoto-seika.ac.jp/about/report/gjh1lq00000029dg-att/naibushitsuhosyo.pdf>

第3条 本学の内部質保証は、以下の各号の基本方針に沿って実行されるものとする。

- (1) 学長のリーダーシップのもとに内部質保証のための組織を整備し、全学的な観点から教育研究等に関する改革・改善を推進する。学長は、必要に応じて常務理事会および理事会と連携する。
- (2) 自己点検・評価は、学外の認証評価機関が定める大学評価基準に準拠し、全学、各学部・研究科等部局、授業科目の3つのレベルにおいて実施する。
- (3) 自己点検・評価においては、アセスメントプランに則り、教育活動、教育効果、学生の学習成果について恒常的に測定・評価を行う。
- (4) 自己点検・評価においては、IR担当部門から提供される各種客観的データ等をもとに現状を把握し、長所の把握および改善点の検証に活用する。
- (5) 自己点検・評価においては、学外有識者、学生、卒業生、地域社会、産業界等から意見をを得ることで、自己点検・評価活動に対する客観性・公平性を担保する。
- (6) 自己点検・評価、外部評価、認証評価、ならびに教育研究活動、学習成果、教育成果を公表し、社会に対する説明責任を果たす。
- (7) 本学の内部質保証の体制および役割、結果、方向性等について、全ての教職員の理解と共有を促し、組織文化として定着をはかる。

2024年度の活動に対する自己点検・評価については、2025年4月4日の大学運営会議において、点検対象期間を2024年4月1日から2025年5月1日とし、点検評価項目を、1.ビジョンにおける教育・研究の3大軸の進捗、2.内部質保証、3.教育課程・学修成果、4.学生の受け入れ、5.学生支援、6.大学運営・財務 の6項目に絞って実施することが決定された。1は本学の独自評価項目、2～6は大学基準協会の大学評価基準の項目をベースとしつつ実質的な点検となるよう学内独自の設問を部局別に設定して点検する形とした。各項目に関する部局別自己点検活動のほか、上述の内部質保証方針(5)に記載されている自己点検評価活動への客観性・公平性を担保する取組として、2024年度に新設した学生モニター制度、および毎年実施している学外有識者による外部評価委員会を実施し、広く意見を聴取した。

本報告書はそれらの点検結果をふまえたうえで、評価できる点および改善が必要な点についてまとめたものである。

【自己点検・評価方法】

各部局において、2024年度の実績に基づき、大学運営会議で承認された「2025年度実施部局別自己点検報告書」フォームに沿って点検作業期間内（5月8日～6月25日）に点検・評価活動を行った（別紙1）。点検項目1～6について、点検項目に関連の深い部局のフォーム内設問に盛り込む形での実施としている。

また、学生による教育への客観評価を得る取組として、前年度まで実施していた特定の学生を対象とした執行部による個別ヒアリングを発展させ、教職員と学生とがグループディスカッションを通してより良い大学づくりを考える「学生モニター制度」を2024年度に立ち上げ、2025年6月10日に実施した（参加学生16名、教員11名、職員4名）。

外部評価委員会においては、2021年度以降は大学基準協会の評価基準の項目に沿って、主に他大学の教職員を中心とした外部評価委員に点検を依頼する形としてきたが、評価結果で指摘された事項への対応が概ね完了したことから、2025年度は社会および産業界の観点から本学の教育目標やカリキュラム等について外部評価を受けることとした。卒業生の就職実績がある企業人、行政事務職、他大学教員、教育ジャーナリストの計6名の外部評価委員による外部評価委員会を2025年7月18日に実施し、学内からは学長をはじめ17名の教職員が参加した。

各部局から提出された部局別自己点検評価報告、学生モニター制度、外部評価委員会それぞれの結果は大学運営会議において報告されてきた。9月4日の大学運営会議で全学的な観点から点検・評価を行ったうえで、改善が必要と考えられる事項については11月の同会議において学長改善指示が各部局に対して出される予定である。

1. ビジョンにおける教育・研究の3大軸の進捗

ビジョンにおける教育・研究の3大軸（表現、リベラルアーツ、グローバル）に関しては、事務局経営企画グループおよびグローバル推進グループの部局別自己点検において検証された。本学では2024年度末までに目指す大学像を示したVISION2024SEIKAを全体のビジョンを2018年に定め、1期、2期中期計画を通してその実現をはかってきた。2024年度は当ビジョンの最終年度であり、ビジョン達成状況についての点検・評価は、第2期中期計画の各目標の達成度合を4段階で評価する形で、常務理事会、評議員会、理事会を通して行われた。点検・評価結果をもとに、2034年を到達点としたビジョン「VISION2034SEIKA」が2025年4月に新たに掲げられている。

【評価できる点】

・中期計画の点検を通じたビジョン達成状況の検証が行われ、各項目の達成度評価結果が可視化され学内に共有された。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

・ビジョンの教育・研究領域と管理・運営領域において課題や改善点が残った目標が多く見られるため、この結果を新ビジョンの確実な実現に向けて活かすことが求められる。

2. 内部質保証および教学マネジメント

内部質保証および教学マネジメントに関しては、事務局学長室グループの部局別自己点検において検証された。2023年度から教学マネジメント上の最高会議体および全学内部質保証推進組織として位置付けた大学運営会議を通して、自己点検評価や外部評価を含めた全学的な検証と改善のPDCAサイクルを回しており、認証評価機関の定める評価基準に対しては概ね対応できていることが確認された。

学部・研究科レベル以下の教学マネジメントに関しては、各学部・研究科の部局別自己点検・評価において検証し、各部局の執行部会議体および各委員会等を通じた前年度の検証・改善活動について振り返りを行った。また、2023年度自己点検評価結果を受けて2024年11月7日の大学運営会議で29件の学長改善指示が各部局に対して出されており、2024年度内に対応が必要とされていた指示に対しては概ね対応できていることが確認された。

2025年度以降の対応が必要とされている指示については、2025年度事業計画に指示に対応する内容が反映されているかを確認することにより、改善が着実に進められる体制を取っている。

【評価できる点】

- ・学部、研究科、機構における自己点検・評価活動を、各部局の執行部会議体を通して行っており、昨年度まで活動実施の根拠となる議事録の作成がなかった一部の学部においても議事録が確保されるよう改善された。
- ・各種学生アンケート分析結果をもとに、各部局において取組の検証と改善施策の立案がなされていること、またその実行計画の策定が確認できた。

- ・学長改善指示に対して、各部局において必要な取組が行われていることが確認できた。
- 【今後必要となる取組や改善が必要な点】
- ・部局によって学部 DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性に関する教員の理解度および学生への説明状況に改善の余地がある。(昨年度から継続課題)
 - ・大学運営会議で提供される IR データについて、各学部・研究科では確認・検証が行われているが、各委員会では行われていない。
 - ・事務局の各部門内における自己点検・評価活動については議事録がないケースが多く、検証活動を示す根拠が不十分である。

3. 教育課程・学習成果

教育課程・学習成果に関しては、各学部・研究科および教学部門の部局別自己点検・評価において検証を行った。2023年度自己点検評価を通してアセスメントプランの実質化が課題として浮かんでいたことから、2024年度にアセスメントプランを刷新したほか、各学部・研究科の独自性に沿った指標を学部・研究科独自指標として設定し、専門領域の特色をふまえた学習成果の設定と検証が行われる形とした。今回の部局別自己点検報告フォームでは「DPに基づいた学修成果の把握に関する点検」として、アセスメントプランの各指標をどのように活用しているか、実態を確認した。

また、学生モニター制度では主に学生アンケートから浮かび上がったテーマとして「教員によるフィードバック」に焦点を当て議論を行ったほか、外部評価委員会においても本学の DP に基づく教育課程を主な評価対象として設定し、学外の有識者から意見を聴取した。

【評価できる点】

- ・全部局において、学部 DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について検証されており、整合性が概ね確認された。
- ・自己点検評価活動に学生が直接参画する恒常的な仕組みが整備された。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・科目レベルより大きなレベルでの成績分布状況に関するデータについて、検証に活用できるデータの提供が必要である。
- ・共通教育機構における学修成果の点検評価体制が整っていない。
- ・シラバスにおいて、授業到達目標に対応した成績・評価基準の具体的な明示を徹底するための対策が必要である。
- ・学生実態調査（アンケート）において国内学生による留学、語学教育等への満足度が低い点について改善が求められる。

4. 学生の受け入れ

学生の受け入れに関しては、入学部門および事務局広報グループの部局別自己点検・評

価において検証を行った。また、各学部・研究科におけるアドミッションポリシーについては、教務委員会を通じて2024年6月に全学部・研究科を対象に検証を行ったが、変更は特に行われなかった。

【評価できる点】

・現在のAPと各入学試験種別との関連性を2026年度入学試験要項に表形式で示し、志願者に明示する情報を充実させるなどの改善を行っている。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・アセスメントプランに設定された新入生アンケート、GPS-Academic結果を活用した、入学試験種別の有効性の検証が望まれる。
- ・学生募集広報活動においてデータに基づく検証・改善活動実績が十分に確認できない。
- ・DP、CPとの一貫性あるAP項目設定の検討が必要である。

5. 学生支援

学生支援に関しては、各学部・研究科および学生部門の部局別自己点検・評価において検証を行った。2024年度の学長改善指示において、学部新入生を対象として入学直後の不安の早期解消のため各学部で同級生・先輩とのつながりを創出することが全学部に指示されていることもふまえた点検結果となった。

また、上述した学生モニター制度において、メインテーマの他に学生支援、進路就職支援、キャンパス環境等に関するテーマについても学生と教職員との間で議論を行った。

【評価できる点】

- ・学長指示として全学部に対して出された、新入生交流イベントの実行が確認された。
- ・学長指示として一部学部に対して出された、退学率および留年率の高さについての現状分析と対応策の立案が確認された。
- ・学生相談窓口に対する最終満足度が、前年度75.0%から1.1ポイント向上し76.1%となった。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・学生支援の適切性に関して全学的な観点から確認・検証が行われている会議体が事務局の学生部門内会議となっており、議事録がないため、確認・検証方法として適切かが判断できない。
- ・入学直後の新入生の不安解消を目的とした各学部における取組結果および効果の検証が必要である。

6. 大学運営

大学運営に関しては、事務局総務グループの部局別自己点検・評価において検証を行った。

【評価できる点】

- ・必要に応じ、専門知識・技能を有する職員の配置を行っている。
- ・教職員を対象としたSD活動が概ね適切に行われている。

【今後必要となる取組や改善が必要な点】

- ・組織運営の適切性について責任部局内で定期的に点検・改善する恒常的な取組みがなく、検証・改善が行われている根拠となる議事録がない。
- ・評価項目のうち、一部しか検証活動が行われていない。
- ・教員と職員の協働連携および職員の人事、業務評価および処遇改善に改善の余地がある。

2025年度実施 部局別自己点検報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

経営企画グループ

0. ビジョンに基づく教育・研究の3大軸（表現・グローバル・リベラルアーツ）の点検

0 - (1) 2024年度末までに目指す大学像を設定したVISION2024SEIKAの最終達成状況について、前年度から今年度5月末までに確認と検証を行いましたか？

○	はい →	会議体名称 2024年度／常務理事会（38、40、42、43）、評議員会（128）、第208回理事会（208） 2025年度／常務理事会（4、5）、理事会（209）、評議員会（129）	議事録有無 ○	
		確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。→		2024年度部署別事業計画書中間報告、期末報告
		確認・検証を行った結果の最終達成状況について、具体的に記載してください。→		ビジョン2034の策定に向けて、ビジョン2024に基づく中期計画（2019-2024）の達成状況を検証する過程で、ビジョンに基づく教育・研究の3大軸に関係がある目標がどの程度達成されたか、という点検を行った。具体的には、[01. 教育・研究領域の中期目標と具体的計画内容のうち]「a.新学部、新プログラム開設と全学の教学改革の完成」、「f.withコロナ時代のグローバル教育の展開」、「h.大学院改革の構想・準備」について。
	いいえ			

0 - (2) ビジョンについて、今年度以降に変更や改善予定の取組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

新ビジョン2034を策定した。今後も随時検証を行う。直近の検証予定会議体は9月の経営戦略協議会を予定している。

V. 学生アンケートに基づく点検

V- (1) 前年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

確認・検証会議体名称	グループミーティング	議事録有無	
------------	------------	-------	--

V- (2) 前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述**以外**のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	<ul style="list-style-type: none"> ・「建学の理念」を社会生活で活かそうとする学生が9割程度いるため、ある程度理念が浸透している。 ・理念が真に浸透しているかどうかは不明であるが、自由自治人間尊重のキーワードが響いたことは事実だと感じた。アンケート自体が理念浸透の一助になっている可能性もある。 ・大学入門での教育効果がある。募集力強化に関するヒアリングを実施したところ、大学案内の理念に惹かれて入学したという学生がいた。自由な雰囲気は好印象を持ったとのこと。
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	[所轄業務関連] <ul style="list-style-type: none"> ・「建学の理念」について、入学時に冊子を配布するだけでなく、2年次以降にも何らかの形で触れる機会があれば更なる浸透・理解が進むかもしれない。 ・「ダイバーシティ環境・意識」について、不満足な学生が多い(2割弱)。ダイバーシティは、本学の特色であるとともに、意識の高い学生も多い。ダイバーシティに関する取組として、教職員向けの研修や学生向けの取組などできると良い。 ・ダイバーシティ推進は、よりよいキャンパス作りの観点からも、恒常的に検討した方が良い。 ・食環境、建物の安全対策、居場所、トイレなどについて改善を求める回答が多い。教育後援会寄付金の使途として、これら改善要求の声に応えることができるかどうか検討する必要がある。 ・食堂のメニュー充実を支援できないか。施設関係では、虫対策や、バス停の防寒対策等検討できるのではないか。

V- (3) 前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	<ul style="list-style-type: none"> ・女性用トイレへのサニタリーグッズの配置に肯定的な意見があった。ダイバーシティ推進に関する取組みの一つでもあると言える。
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレについての声が多い。洋式トイレ、温水便座の導入など、最新型機材への更新の要望が多い。 ・施設設備に関する衛生的なマイナスコメントがある。食中毒や事故などが起こってしまうと大学に対するイメージもダメージを被る。 ・バリアフリー調査結果にもあがっていたが、エレベーターや階段の安全性を問う声が出ている。バリアフリーの充実を望む声もあった。雪で滑る流溪館と自在館の間の下り坂には、手すりをつけることを検討してはどうか。 ・バス停のベンチが、背もたれがあると良いとの意見あり。 ・学食のメニューの幅が狭い、価格が高い、味に問題がある、学生応援ランチの数が少なくすぐ売り切れるという不満が出ている。パン屋さんの復活やパスタの導入、自動販売機の充実を望む声もいくつかあった。 ・風光館エリアの不便さと食環境の問題、トイレの整備不足への意見が目立った。

2025年度実施 部局別自己点検報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

広報グループ

Ⅲ. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

1. 学生募集活動の適切性について、自部門において定期的に確認・検証を行っていますか？（はい、いいえ）

		会議体名称	広報グループMTG	議事録有無	
○	はい →	確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。→		高校訪問用の学修状況調査結果、高校訪問時の聞き取り	
	いいえ				

2. 検証の結果、今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

--

3. 前年度の学生募集活動は、大学、学部、研究科のDP,CP,APと整合性が取れていましたか？

			回答根拠 →	学部に関してはGPS-Academic結果（1年生入学納得度） / 研究科については根拠資料なし
--	--	--	--------	--

4. 以下の各項目に関連する教学データのうち、前年度～今年度5月末までの学生募集活動、または今年度以降の募集活動に向けて、**大学の教育成果の根拠として参照・活用した指標やデータがあれば、全て選択してください。**

<input type="checkbox"/> 入学時アンケート（参照媒体、イメージ等）	<input type="checkbox"/> キャンパスライフアンケート（満足度等）	<input type="checkbox"/> 卒業時アンケート（満足度・成長実感等）	
<input type="checkbox"/> 企業アンケート（学生の就職先）	<input type="checkbox"/> GPS-Academic結果（思考力・経験等）	<input type="checkbox"/> 実就職率	<input type="checkbox"/> 卒業生アンケート（卒業後の学生対象のもの）
上記以外 → ()			

V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1）前年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

確認・検証会議体名称	広報グループMTG	議事録有無	
------------	-----------	-------	--

V-（2）前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述**以外**のデータから、学生募集の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	卒業時の入学納得度が全国平均値よりも高かった点は、当時の学生募集活動と3ポリとの整合性が取れていたと解釈して良いように思われる。
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	現時点では特になし

V-（3）前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、学生募集の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	人文学部のフィールドワークを筆頭に、学生募集活動でアピールしているカリキュラムの取組等に対して、卒業時に良かったという声が寄せられている点。
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	2つの新学部（当時）のカリキュラムや、抽選科目に関し、学生募集活動時の情報と入学後の実態のギャップに関する記述が複数見受けられた。学部設置・改組やカリキュラム改組に際しては齟齬が発生しないよう当該学部・学科との連携を強化する。抽選科目に関しては広報グループでの対応は難しい。

2025年度実施 部局別自己点検報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保証することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月未までの教育・研究活動です。

学長室グループ						
Ⅷ. 内部質保証に関する点検（学長事務）						
Ⅷ-（１）内部質保証の適切性について、自部門において定期的に確認・検証を行っていますか？（はい、いいえ）						
○	はい →	会議体名称	大学運営会議	議事録有無	○	
	いいえ					
Ⅷ-（２）前年度～今年度5月未までを振り返り、以下の各項目について、自部門において検証を行ったものに全て○をつけ、○の項目のみ、検証会議体の記載と結果を選択してください。（４択）						
○	内部質保証方針で基本的な考え方、体制（組織、位置づけ、役割や責任）、手続きを明らかにしているか	○の場合→	会議体名称	大学運営会議	検証結果→	1:十分行っている
○	教育企画設計と実施、自己点検評価改善活動の全学的な調整と支援を行っているか	○の場合→	会議体名称	大学運営会議	検証結果→	2:概ね行っている
○	全学および学部研究科等の自己点検評価を定期的実施し、結果を活用して改善向上に取り組んでいるか	○の場合→	会議体名称	大学運営会議	検証結果→	1:十分行っている
○	自己点検評価の客観性・妥当性を高めるため、学生や外部の視点を取り入れているか	○の場合→	会議体名称	大学運営会議	検証結果→	2:概ね行っている
○	行政機関、認証評価機関からの指摘事項に適切に対応しているか	○の場合→	会議体名称	大学運営会議	検証結果→	1:十分行っている
○	学生の学修実態、学修の成果に関わる情報を分かり易く公表しているか	○の場合→	会議体名称	大学運営会議	検証結果→	2:概ね行っている
Ⅷ-（３）確認・検証の結果、前年度～今年度5月未までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。						
<p>教員組織編成方針が未整備であったため、大学運営会議を通して整備し公表した。自己点検によりアセスメントプランの実質化が教学マネジメント上の課題の1つであることが分かったことから、同会議においてアセスメントプランを実態に即した内容に刷新し、各学部学科で独自指標を設けることでそれぞれの特徴的な教育の成果が見えやすくなるようにした。それに伴い、質保証体系図の内容も新アセスメントプランに合わせて修正した。また、学生の視点を教育の改善に取り入れるための取組として、2023年度から実施していた学生ヒアリングを拡大させて教職員と学生が直接対話する形式で教育の質保証に学生が直接参加する仕組み「学生モニター制度」の設置を企画提案し、2025年度以降の実施が決定した。</p>						
Ⅷ-（４）今年度以降に変更や改善予定の取組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）						
<p>2025年6月に学内にて学生モニター制度を実施予定。学生アンケートも2025年度から名称と実施時期等を大幅に修正し、回答のしやすさや学内での認知向上、分析結果の提供のしやすさを改善する予定。教学に関する各種方針を点検したところ、方針によって10年以上前に設定されて以降見直しが行われておらず方針として機能していない可能性があるものが複数見られたため、新ビジョンおよび中期計画とも沿う形で2025年度から2026年度にかけて後適宜修正や新たな設定を行うこととなった。</p>						
Ⅴ. 学生アンケートに基づく点検（情報館、展示、社会連携）						
Ⅴ-（１）前年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）						
確認・検証会議体名称	学長室グループ専任職員ミーティング (6/10) 情報館管理運営委員会で報告予定 (6/27)		議事録有無			
Ⅴ-（２）前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述 <u>以外</u> のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。						
評価できる点、更に伸ばしたい点	<p>【展示】 ・最終満足度「9-10.展示スペース（ギャラリー等）」の結果は「1_とても満足している」と「2_まあ満足している」が全体の約80パーセント弱を占め、ギャラリー利用の機会の多い、芸術学部においては、「1」が52.3%であることから、引き続き申請展の学生利用や企画展での作品鑑賞機会の提供など、意欲的に行ってきたい。</p>					
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）						
Ⅴ-（３）前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。						
評価できる点、更に伸ばしたい点	<p>【情報館】 ・情報館の蔵書が豊富との記述が2件あった。引き続きカリキュラムに沿った教養、専門資料の選定、購入を継続し、在学生有用な資料の充実を図る。 ・情報館にはない書籍でも相談や申請すれば近くの図書館の蔵書状況を教えてくれたり、新たに購入してくれた、という記述があり、今後も利用者からの相談や問い合わせへの対応サービスを更に充実させ、あわせて利用者参加型の資料購入（リクエスト制度、選書会、等）機会の拡充と周知を行う。 【展示】 「経験を積んだ学芸員から作家として成長する機会を沢山いただくことが出来たり、親密に作品と向き合ってもらえることができるのは京都精華大学ならではの」「明窓館の展示スペースがきれいで良かった」「陶芸専攻ゼミにて、合同陶芸展の企画・運営し、他大学の方々とも関わりながら規模の大きな展示会を代表として進めた経験が、とても有意義であった」など好意的なコメントが目立った。在学生に大学内にあるギャラリーならではの魅力を感じてもらえていることが伺え、今後も在学生が観覧、展示の機会を持てるよう活動の周知を図る。 【社会連携】 ・学長室グループにて実施している連携事業に関する記載は無いが、学部授業に関する記述において産学連携授業を評価する記述があることから、在学生が、社会や企業と連携する機会の意義について確認した。</p>					
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	<p>【情報館】 ・情報館の蔵書については、豊富との記述がある一方で、不足との記述（3件）もあり、次年度予算要求時に、資料購入予算の増額申請を行い、収蔵資料数を増加させたい。 ・特定の分野の図書に関する記述（5件）がある。利用者参加型の資料購入（リクエスト制度、選書会、等）を拡充し、周知することで利用者の要望に沿った収書を進める。 【展示】【社会連携】 ・学外サテライトスペースkara-Sについての記述が無く、認知度が低いと考えられる。学内ギャラリーとは別に、市中で展示等の対外発表活動ができることについて周知を図る。</p>					

2025年度実施 部局別自己点検報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月未までの教育・研究活動です。

総務グループ

Ⅶ. 大学運営に関する点検（総務・経理）

Ⅶ-（１）組織運営の適切性について、自部門において定期的に確認・検証を行っていますか？（はい、いいえ）

	はい →	会議体名称		議事録有無		
○	いいえ					

Ⅶ-（２）前年度～今年度5月未までを振り返り、以下の各項目について、自部門において検証を行ったものに全て○をつけ、○の項目のみ、検証会議体の記載と結果を選択してください。（４択）

	大学の理念・目的、将来、中長期計画等実現に向けて、大学の管理運営方針を適切に設定し教職員間で共有しているか。	○の場合→	会議体名称		検証結果→		回答根拠→	
	組織・役職者の権限と役割を明確化し、適切に管理しているか。	○の場合→	会議体名称		検証結果→		回答根拠→	
	役職者の選任およびマネジメントを適切に行い、法人組織内の意思決定・業務執行のチェック機能が働いているか。	○の場合→	会議体名称		検証結果→		回答根拠→	
○	予算は適正な手続で編成され、予算執行の透明性は確保されているか。	○の場合→	会議体名称	業務監査会議	検証結果→	2:予算編成と執行の透明性は概ね適切に行われている	回答根拠→	年間の予算編成・執行のことも含めた決算について、学内理事、監事、会計士から意見を求めたところ、特段の指摘はなかった。
	大学運営に必要な組織を整備し、法人・大学運営の業務内容に適した人員が配置されているか。	○の場合→	会議体名称		検証結果→		回答根拠→	
○	教員と職員の協働・連携を図っているか。	○の場合→	会議体名称	総務グループミーティング	検証結果→	3:概ね適切に行われているが改善の余地がある	回答根拠→	教職員合同会議の存在や教職員が同等の立場で委員会等を運営している実績があること等を踏まえ、概ね適切に行われていると言える状況にあることを会議において確認した。
○	必要に応じ、専門知識・技能を有する職員の育成、配置を行っているか。	○の場合→	会議体名称	総務グループミーティング	検証結果→	2:専門知識・技能を有する職員の配置を概ね適切に行っている	回答根拠→	「特定業務職員」という職位を新たに設け、専門知識・技能を有する職員の採用、配置を行った事実を会議において確認した。
○	職員採用、昇格等人事、業務評価、評価に基づく処遇改善を適正に行っているか。	○の場合→	会議体名称	総務グループミーティング	検証結果→	3:概ね適切に行っているが、改善の余地がある	回答根拠→	特定事務職員の本俸を引き上げた事実を会議において確認した。
○	職員及び教員を対象としたSDを組織的に実施しているか。	○の場合→	会議体名称	総務グループミーティング	検証結果→	2:教職員を対象としたSD活動を概ね適切に行っている	回答根拠→	教員も受講対象者に含めたSD研修を実施した事実を会議において確認した。
	組織のあり方を含む大学運営にかかわる事項を定期的に点検評価し、現状や成果、課題を把握し改善向上につなげているか。	○の場合→	会議体名称		検証結果→		回答根拠→	

Ⅶ-（２）確認・検証の結果、前年度～今年度5月未までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

- ・教員も受講対象者に含めたSD研修を実施した。
- ・「特定業務職員」という職位を新たに設け、専門知識・技能を有する職員の採用、配置を行った。
- ・特定事務職員の本俸を引き上げた。

Ⅶ-（３）今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

- ・職員の「キャリアサポート制度」の策定（2025年度中にとりまとめ、2026年度からの開始を目指す）

Ⅴ. 学生アンケートに基づく点検（施設管理）

V-（１）前年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

確認・検証会議体名称	総務グループミーティング	議事録有無			
------------	--------------	-------	--	--	--

V-（２）前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述以外のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	<p>老朽箇所や不具合個所の修繕を計画的、継続的に実施している点。</p> <p>1) 老朽施設の計画的修繕（更新）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 建物内照明のLED更新工事（風光館、自在館、光彩館、対峰館、本館、情報館、悠々館、情報館、体育館） * 老朽空調の更新工事（対峰館、清風館） * 老朽トイレの更新工事（黎明館） * グラウンド整地工事 * 教室内什器（机、イス等）の更新（プロダクトデザイン学科、洋画専攻、立体造形専攻、版画専攻） <p>2) 食堂利用環境向上に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> * 2025年10月導入開始に向けた計画提案の後、2025年度の什器更新、2026年度のシステム更新が決定 <p>3) 5号館建て替えに伴う各種案件について、取りこぼしのないように作業を進める</p>
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・学内各所の老朽および不具合個所（建物、建物付随施設、教室及び実習室内機器備品など）に対し、計画的に修繕を行っていく。高額予算を必要とする案件が多くなるため、臨時施設予算を中心に中長期計画を立案する。 * エレベーター、エアコンなど老朽施設、設備の計画的更新 * 雨漏りや湿気などの不具合個所の修繕 * 教室（実習室）内の老朽什器（机、イス）の計画的更新

V-（３）前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	<p>老朽箇所や不具合個所の修繕を計画的、継続的に実施している点。</p> <p>引き続き、各種アンケート結果（回答）を今後の計画に盛り込み、利用者の利便性向上に務めること。</p>
-----------------	---

<p>今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学内各所の老朽および不具合箇所（建物、建物付随施設、教室及び実習室内機器備品など）に対し、計画的に修繕を行っていく。高額予算を必要とする案件が多くなるため、臨時施設予算を中心に中長期計画を立案する。 * エレベーター、エアコンなど老朽施設、設備の計画的更新 * 雨漏りや湿気などの不具合箇所の修繕 * 教室（実習室）内の老朽什器（机、イス）の計画的更新 ・学内施設利用に関するマニュアルの整備を2025年度中に完成させる。 ・スクールバスの増便が難しい点について、実情を説明する機会を設ける。 ・喫煙場所の増設を希望する意見に対し、大学としての喫煙環境整備を考える場を設ける。当該案件は施設整備だけの問題ではなく、大学として喫煙問題をどうとらえるかの延長にあるべきで、過去の検討実績を参考に、学生生活委員会や衛生委員会など委員会や該当する事務局による検討組織を設けることが必須と考える。
<p>V. 学生アンケートに基づく点検（情報管理）</p>	
<p>V-（1）前年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）</p>	
<p>確認・検証会議体名称</p>	<p>情報管理チームミーティング</p>
<p>V-（2）前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述以外のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。</p>	
<p>評価できる点、更に伸ばしたい点</p>	<p>特になし。</p>
<p>今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）</p>	<p>特になし。</p>
<p>V-（3）前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。</p>	
<p>評価できる点、更に伸ばしたい点</p>	<p>特になし。</p>
<p>今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）</p>	<p>【学部】24年度卒業時アンケート自由記述全項目 PCルーム等のソフトウェア更新は、2024年度末に一部（Z301、L203、L104）実施済。残りの教室は2025年度末に実施を検討中。2026年度からは7教室の年度末更新費用を予算計上し、毎年の更新を予定している。 情報館のWi-Fi強化は、2024年度末にWi-Fi機器を更新済。情報館専用のWi-FiのSSIDも公開して他の建物との差別化を対策している。 【研究科】24年度修了時アンケート全結果 研究室の不要なコピー機などの回収について施設管理チームとも協議して受付方法を検討する。</p>

2025年度実施 部局別自己点検報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保証することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

グローバル推進グループ											
0. ビジョンに基づく教育・研究の3大軸（表現・グローバル・リベラルアーツ）の点検											
0 - (1) 本学のグローバル推進の状況について、前年度から今年度5月末までに確認と検証を行いましたか？											
○	はい →	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 20%; text-align: left;">会議体名称</th> <th style="width: 20%; text-align: left;">グローバル推進委員会</th> <th style="width: 10%; text-align: left;">議事録有無</th> <th style="width: 5%; text-align: center;">○</th> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。→</td> <td colspan="3" style="padding: 5px;">海外留学生派遣数（交換留学・海外長期フィールドワーク・海外インターンシップ・海外ショートプログラム）海外協定校からの交換留学生受入数・短期研修プログラム受入れ校数・iC-Cube利用状況・国際学生寮修交館報告書等</td> </tr> </table>	会議体名称	グローバル推進委員会	議事録有無	○	確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。→	海外留学生派遣数（交換留学・海外長期フィールドワーク・海外インターンシップ・海外ショートプログラム）海外協定校からの交換留学生受入数・短期研修プログラム受入れ校数・iC-Cube利用状況・国際学生寮修交館報告書等			
会議体名称	グローバル推進委員会	議事録有無	○								
確認・検証に用いた根拠やデータを、具体的に記載してください。→	海外留学生派遣数（交換留学・海外長期フィールドワーク・海外インターンシップ・海外ショートプログラム）海外協定校からの交換留学生受入数・短期研修プログラム受入れ校数・iC-Cube利用状況・国際学生寮修交館報告書等										
	いいえ										
0 - (2) 確認・検証の結果、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。											
海外派遣留学の募集広報をより充実させた。iC-Cubeの予約と利用のマニュアルを整備し、多くの学生が使いやすいように工夫した。昨年度に2校の協定校を対象に短期受け入れプログラムを実施し、それを元にかねてからの課題であったKYOTO INSPIRATIONプログラムを再開した。											
0 - (3) 今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）											
海外プログラム（短期・長期）の質保証と改善に向けたプログラム評価の方法の確立（7 - 9月）。交換留学制度の見直し（協定校との派遣-受入れ人数や地域バランスの検証と受け入れ態勢の整備・充実を志向した制度設計（現在-2026年3月）											
V. 学生アンケートに基づく点検											
V- (1) 前年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）											
確認・検証会議体名称		グループ・ミーティング	議事録有無								
V- (2) 前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述 <u>以外</u> のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。											
評価できる点、更に伸ばしたい点	「成長への貢献度」においては、留学生を対象にした回答結果は「語学の勉強」と「留学・留学準備」の双方においてポジティブ回答の比率が極めて高いこと。										
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	「成長への貢献度」の中で、「語学の勉強」と「留学・留学準備」においては「国内学生」のポジティブ回答が依然として低い傾向が見られる。とくにメディア表現学部生への動機づけが今後必要になると考えられる。										
V- (3) 前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。											
評価できる点、更に伸ばしたい点	留学経験が多様な文化の理解や今後の進路決定に役立ったとの評価は他の多くの学生と共有できるようにしたい。										
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	留学前の準備段階において留学先での履修内容の詳細がわからなかったこと、語学学習のサポートが十分に得られなかったとの感想は真摯に受け止め、改善に向けた方策を検討したい。（現在から2025年12月までに実施予定）										

2025年度実施 部局別自己点検報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

教務部長・教学グループ長

IV. アセスメントプランに基づく点検

IV-（1）全学および学部別の教学支援内容の適切性について、前年度～今年度5月中までに確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）

○	はい →	会議体名称	教務委員会、FD委員会	議事録有無	○		
		確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓					
		①新入生アンケート結果	②キャンパスライフアンケート結果	○	③授業評価アンケート結果（学部）	④卒業時アンケート結果	
○		⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）	○	⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
		⑨GPA分布状況	⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ		⑫休学・留年・退学（除籍）率
○		⑬標準修業年限卒業率	⑭実就職率				
		⑮その他（用いたものを全て記載してください） → （ 履修取消率、成績質問結果 ）					
	いいえ						

IV-（2）確認・検証の結果、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

・教務委員会を通して昨年度に使用した卒業作品・論文、修士学位審査、博士学位審査におけるルーブリックの点検を依頼し、ディプロマポリシー(DP)との相関を明確にするよう指示した。結果、学部・研究科においてDPとの紐づけに関して点検・改善がなされ、次年度使用する各学部・研究科のルーブリックが全学的に共有された。
・2024年度から成績質問をフォームにて受け付けたことにより、分析結果を教務委員会に共有することができ、各科目の成績評価に関する問題点、学生のニーズが可視化された。学生に対する成績評価の適切性をより示すため、教務委員会を通して成績評価基準の明示、ルーブリックの活用を依頼するほか、ヒューマンエラーの削減に取り組んだ。
・次年度学部カリキュラム作成時の検証を目的として、GPS-Academicの結果を基に、FD委員会主催のFD研修において、学部ごとの学生のDPの伸長を確認した。

IV-（3）今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

・各科目の到達目標とDPとの連動について点検する。6月の教務委員会を通して依頼し、9月に次年度科目の到達目標を確定する。
・授業評価アンケートの結果を用い、科目が設定しているDPと学生が成長したと感じるDPとを比較し、科目配置および授業内容の点検を行う。授業評価アンケートの結果集計ごとに実施予定。

V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1）前年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

確認・検証会議体名称	教学グループ専任ミーティング、教務部長とのミーティング	議事録有無	
------------	-----------------------------	-------	--

V-（2）前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述**以外**のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	・最終満足度（学生窓口対応）において7, 8割が満足と回答している。2024年度は窓口対応マニュアルの作成、レイアウト変更などにより、窓口対応の改善に努めてきた。今年度も不満と回答する割合を減らせるよう努める。 ・成長実感（カリキュラム評価）において、カリキュラムおよび教育方法がDPにて定める5つの力の修得に効果的だと思う回答が9割を占めた。学生、教員への教学支援を行う部署として大変喜ばしいことである。
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	・卒業時アンケートの回収率は前年度より15.2ポイント向上しているが、4年次必修科目内でのアナウンスを促すなど教学グループからも教員へ呼びかけを行う。 ・最終満足度（ポータルサイト）への満足度が6割と低い。とくにメディア表現学部においては厳しい評価を受けている。自由記述から要望を拾い、システム会社等と対応を検討する。

V-（3）前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	・コロナ禍を機にオンライン授業を整備してきたことについて評価するコメントがあった。学生の教育機会を最大限担保する授業形式として、今後も点検を継続していく。
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	・窓口対応に関して改善を求める意見が見られた。2024年度は窓口対応マニュアルの作成、レイアウト変更などにより窓口対応フローを改善したが、2025年度においてもマニュアルの徹底により学生を待たすことのない対応を心がける。また、丁寧な対応を継続して行う。 ・抽選科目により履修計画がうまくいかなかったとするコメントが複数あった。クラス数の増加（定員枠の増加）のほか、フィールドワークのために外国語の学習が必要となる学生などに対しては、抽選のシステムについて検討していきたい。

VI. 学長改善指示に基づく点検

VI-（1）前回自己点検報告等を受けて前年度に出された以下の学長指示に対し、前年度～今年度5月末までの対応結果について記載してください。

当該学長指示①→	退学率悪化の原因について、2024年度中に現状の分析結果と対応策を報告してください。
退学の事由としてあげられる、「修学意欲の低下」「進路変更」に至らないよう、学生との面談リストへの記録の徹底し、事務局の部局間でも共有する。また、カリキュラムが要因となる退学について、教務チームにて作成する「進級判定表」等にて記録を残し、退学傾向の把握、分析を行う。※2024年度末に別紙回答済み	
当該学長指示②→	パソコンルーム利用率が低い結果を受け、利用授業（科目数と配当曜日講時）の状況を調査し、公開時間（事業時間以外）のニーズをふまえ、パソコンルームの必要性について具体的に検討してください。（2024年度中）

PCルームはWindowsルーム3室、Macルーム3室の計6室を保有しているが、授業の重複などにより曜日によって使用状況にばらつきが見られる。多くのコースでノートPC購入が必須だが、専攻配属前の学生や、大学でライセンスを購入する必要があるソフトを使用する授業など、PCルームでしかできない授業があるため、学生がノートPCを購入していてもPCルームは必要となる。一方、維持・メンテナンスには多大なコストがかかる。情報管理チームと教務チーム間で、配当状況を踏まえPCルームの利活用について検討しており、2025年度は黎明館L-105を「デジタルコモンズ」とし、開放時間を拡大する予定である。 ※2024年度末に別紙回答済み

2025年度実施 部局別自己点検報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

学生部長・学生グループ長

IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

IV-（1）全学および学部別の学生支援の適切性について、前年度～今年度5月中までに確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）

○	はい	会議体名称	学生Gリーダー会議	議事録有無			
	→	確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓					
○	①新入生アンケート結果	○	②キャンパスライフアンケート結果		③授業評価アンケート結果（学部）	○	④卒業時アンケート結果
	⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）		⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
	⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ	○	⑫休学・留年・退学（除籍）率
	⑬標準修業年限卒業率	○	⑭実就職率		⑮企業アンケート		⑯既卒生アンケート
○	⑰その他（用いたものを全て記載してください）		障害学生支援数の推移、学生相談室活動報告、保健室利用状況				
	いいえ						

IV-（2）確認・検証の結果、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

常勤保健師の雇用および、三室(学生相談室・障害学生支援室・保健室)連携会議を設置し、学生の心身の健康促進体制を整備した。
保健室の平日の開室時間を9:00～17:00(13:00～14:00休憩により閉室)から9:00～18:00に延長し(休憩による閉室時間なし)、事務取扱時間と同じ時間帯の対応を可能にした。

IV-（3）今年度以降に変更や改善予定の取り組みがあれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

病院と業務委託契約を締結し、学生相談室のスーパーバイザーとして2025年6月より月1回（3時間）、精神科医の派遣により、学生相談室・障害学生支援室・保健室における精神面の不安を抱えた学生への対応について医学的知見からアドバイスを受け、必要に応じて学生の健康相談に対応する体制を整備した。

V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1）前年度卒業時アンケート結果の確認・検証を部門全体で行ったうえで、以下を回答してください。（※データや書類の共有のみでは検証したことになりません。）

確認・検証会議体名称	学生Gリーダー会議	議事録有無	
------------	-----------	-------	--

V-（2）前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述以外のデータから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	学生窓口対応の満足度が、昨年度より増加し全国他大学の平均を上回っている（全体の75%以上）
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	学生窓口対応に関する評価に対し、引き続き丁寧な対応を心がけたい。 更に学生生活委員会にて学部での対応強化についても継続的に依頼していきたい。

V-（3）前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の観点から評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、更に伸ばしたい点	学生支援窓口の対応に対して高い満足を示す学生もおり、更に丁寧な対応を目指したい。
今後改善を要する点（改善予定時期も明記してください）	新学期の窓口の混雑時に担当者を増やす対応を引き続き行いたい。 学生の意見にあった学内バリアについて、昨年度に引き続き調査を10月に行い、改善提案を行ってみたい。

VI. 学長改善指示に基づく点検

VI-（1）前回自己点検報告等を受けて前年度に出された以下の学長指示に対し、前年度～今年度5月末までの対応結果について記載してください。

当該学長指示①→	退学率悪化の原因について、2024年度中に現状の分析結果と対応策を報告してください。
----------	--

正課外活動(クラブ・サークル活動、学園祭等)への参加は、交友関係を深め、大学への帰属意識を醸成することにも繋がると考えられる。学生生活の充実を図り、退学率を改善させる観点から、以下の取り組みの更なる促進を図る。

- ・ 学生自治会(自由自治会)との連携および活動のサポート
- ・ 公認学生団体との連携および活動のサポート
- ・ 学園祭実行委員会との連携および活動のサポート
- ・ その他、学生や学生団体が積極的に活動を行うための環境整備や情報発信

学生生活委員会では、2021～2023年度学科別学籍異動状況推移報告書が示され、この報告書に基づき、各学部において退学者、休学者、および休学からの退学・除籍者についての分析を行い、現状の課題と今後の対策について報告された。

2025年度実施 部局別自己点検報告書

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

入学部長・入学グループ長					
Ⅲ. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検					
Ⅲ-（1）全学および学部別のAPの設定の適切性（DP、CPと一貫性があるか）について、前年度～今年度5月中までに確認・検証を行いましたか？（5段階）					
2:検証を行い、適切な一貫性を確認した	実施会議体名称	入試委員会	議事録有無	○	
Ⅲ-（2）APに基づいた入試制度や運用体制、入試の実施状況について、前年度～今年度5月中までに確認・検証を行いましたか？（はい、いいえ）					
○	はい →	会議体名称	入試委員会	議事録有無	○
		確認・検証を行った結果、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば、具体的に記載してください。		2026年度入試に向けて、募集単位・入試種別毎の募集人員の見直し、入試種別の再構築、試験科目の変更、エントリー料の設定を行った。	
○	いいえ				
Ⅲ-（3）前年度の入試制度は、APと整合性が取れていましたか？					
○	はい	いいえ	回答根拠を記載してください。→	本学では、「総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用入試、外国人留学生入試、社会人入試、海外帰国生徒入試」と多様な入試種別を実施し、また試験内容として「体験授業、プレゼン、面接、小論文、実技、教科・科目、ポートフォリオ」を設定している。入試種別と試験内容の組み合わせにより、APに定める「知識、理解、技能、思考、判断、表現、関心、意欲、態度」の各項目について評価を行うことができている。	
Ⅲ-（4）各入試とAPとの関連性が志願者にとって分かりやすく明示されているか、前年度中に確認・検証を行いましたか？（5段階）					
3:明示されているが分かりやすさに改善の余地がある		会議体名称	入試委員会	議事録有無	○
1-4の場合 →	明示方法を選択してください（複数可）	○ 大学HP	○ 入試広報物（媒体名を記載してください） →	○ その他（学習のてびき）	入試ガイド、入試要項
		学部独自資料（→○の場合当該資料を提出ください。）			
Ⅲ-（5）アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までにAPの設定、入試制度や運用等に関する検証に 実際に活用・参照したものの全て に○を選択してください。					
新入生アンケート結果	○	各種入学試験結果		GPS-Academic結果（思考力・経験等）	○
その他 →		用いたものを全て記載してください。（			
Ⅲ-（6）. 現状のAPの設定、APに基づく入試制度、運用、志願者への明示方法等について、今後検討・改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）					
2024年度入試委員会（第8回～第10回）にて、入学者選抜方針（選抜区分とAPの対応）について協議を行い、2026年度入試要項（2025年7月配布予定）に入試種別とAPの対応表を記載することで、志願者への明示について改善を行った。情報量としても昨年度の1/2ページから2ページへと情報量も大幅に増加した。					

2025年度実施 部局別自己点検報告書（国際文化学部）

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は**2024年4月～2025年度5月末まで**の教育・研究活動です。

I. 教学マネジメントに関する点検

I - (1) この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

○	はい →	会議体名称	【2025年度】学部運営会議および学部教員会議	議事録有無	○
---	------	-------	-------------------------	-------	---

いいえ

I - (2) 現状の学部DPの適切性（所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

○	はい →	会議体名称	【2024年度】学部運営会議（議事録無）、【2025年度】学部運営会議（議事録有）	議事録有無	○
---	------	-------	---	-------	---

確認・検証を行った結果、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば、具体的に記載してください。
【2024年度】学部運営会議にて検討したが内容は変更していない。【2025年度】21カリのルーブリックを改善するために21カリのDPについての検証活動を5月から開始し、6月の教育課程編成会議での審議を経て、本格的に検証活動・改善活動を開始する予定である。

いいえ

I - (3) 現状の学部DPについて、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

【2025年度】I-(2)で説明したように、現状用いているルーブリックが、DPと関連づけられていないという課題がある。つまり、現状のルーブリックと現状のDPとの関係を検証しつつ、かつ、DPの適切性の検討も視野に入れながら、早急に、改善していく必要があると判断している。

I - (4) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

2:検証を行い、整合性を概ね確認できた	会議体名称	【2024年度】学部運営会議	議事録有無	
---------------------	-------	----------------	-------	--

I - (5) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

【2024年度】学部運営会議にて検討したが変更はしていない。

I - (6) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

【2025年度】25カリについては、本年度から運用されているが、その実際の運用の実践を通じて、理論面からではなく実践面からの点検・検証が必要であると判断している。

I - (7) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

3:一定の理解・共有がされているが課題がある	回答根拠→	【2025年度】共有の仕方が組織的でないため
------------------------	-------	------------------------

I - (8) DP,CP,APに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために前年度～今年度5月末までに行った取り組みがあれば、具体的に記載してください。

【2024年度】学部教員会議において資料を配付し概要を説明した。

I - (9) DP,CP,APに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

【2025年度】5月から開始した「3つのポリシーおよびカリキュラムマトリクス、各科目到達目標」等の検証活動を、学部運営連携チームミーティング、と学部運営会議との連携をもとに、各専攻会議・各コース会議へ広げ、最終的に、それを学部運営会議でとりまとめ、学部教員会議で共有することによって、各教員の理解度が深まると考えている。

II. DPに基づいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、**アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと**を指します。

学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II - (1) アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の**学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全て**に○を選択してください。

<input type="radio"/> ①新入生アンケート結果	<input type="radio"/> ②キャンパスライフアンケート結果	<input type="radio"/> ③授業評価アンケート結果（学部）	<input type="radio"/> ④卒業時アンケート結果
<input type="radio"/> ⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	<input type="radio"/> ⑥必修科目修得状況（学部/全学）	<input type="radio"/> ⑦単位修得状況（専門/共通）	<input type="radio"/> ⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
<input type="radio"/> ⑨GPA分布状況	<input type="radio"/> ⑩成績分布状況（専門/共通）	<input type="radio"/> ⑪学修ポートフォリオ	<input type="radio"/> ⑫休学・留年・退学（除籍）率
<input type="radio"/> ⑬標準修業年限卒業率	<input type="radio"/> ⑭実就職率		
<input type="radio"/> ⑮学部別独自指標（活用したものを全て記載）→			

（【2025年度】「国際文化学部1年生 第1Q末アンケート」5月30日実施）

II - (2) 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

【2024年度】キャンパスライフアンケート、卒業時アンケートは特に自由記述部分を中心に学部運営会議、学部教員会議で共有した。ルーブリック評価（卒業論文）は専攻内の教員間で共有され、成績評価に活用されている。GPA分布状況は教員に結果を示した上で、平均値が1.5未満の学生への面談実施を依頼した。【2025年度】2025年度新入生に対しては、学部基幹科目である月曜3限～5限のハッシュタグ・プログラム、および金曜日4・5限のことば実習で伸長の対象にしている、本学の国際文化学部・人文学部（2026年度名称変更）の重要なリベラル・アーツ、すなわち、フィールドワーク実践力および自己を語り書く力を、学部独自の指標「国際文化学部1年生 第1Q末アンケート」の「自由記述」部分から把握し、初年次教育担当者間で共有した。また、同アンケートによって、1年生未までに行う専攻選択、およびFWプログラム選択への理解度を把握し、その結果、学修の背景になるカリキュラム事項が学生に十分に理解されていないとのが分かり、2Qで時間をうまく捻出しながら、それらの説明を行っているところである。また、全学年について、1Qの単位取得状況とリンクした1Q限定のGPA「0.00～1.00」に着目し、この間に位置する学生については、成績表と対応させつつ、学生の学修状況の点検を行った。

II - (3) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明ほどの程度されていますか？（5段階）

4:説明をしたが十分でなく、改善する必要がある 回答根拠→ 【2024年度】ガイダンス等で説明しているが理解度の測定などは行っていない。

II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

○	はい →	どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。	○	大学HP	○	学習のてびき2024（当該ページを記載してください。）→	p.	73
				その他 →具体的に右に記載してください。				
	いいえ							

II - (5) 学修成果の把握・検証および学生への説明について、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。

【2024年度】ガイダンスが説明の場になると思われるが、現状では十分な説明時間が確保できていない。

II - (6) 学修成果の把握・検証および学生への説明について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

【2025年度】特に卒業時における学修成果の把握の際に用いるルーブリックについて、現行のルーブリックが5つのDP指標に適切に結びついておらず、一面的になっているので、それをより広い角度からDPに結びつくよう改善が必要であると判断している。また、国際文化学部・人文学部（2026年度名称変更）の教育の柱のひとつであるフィールド・プログラムについても、その学修成果を把握できる指標を作るべきではないか、と考えている。そのためには、1年の後期の地域学から始まるフィールド・プログラム全体の評価体系とそれを支える学部教育全体の評価体系の創出が必要であると考える。その目安として、2025年度に設定した学部教育の5つの理念、すなわち、現場主義、実践主義、学際主義、国際主義、表現主義を現行のDPと関連させて考えるのも重要だと判断している。

III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

IV - (1) 各学部における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

○	はい →	会議体名称	【2024年度】学部運営会議（議事録無）【2025年度】学部運営連携MT（議事録有）	議事録有無	○				
		確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓							
		○	①新入生アンケート結果	○	②キャンパスライフアンケート結果	○	③授業評価アンケート結果（学部）	○	④卒業時アンケート結果
		○	⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	○	⑥必修科目修得状況（学部/全学）	○	⑦単位修得状況（専門/共通）	○	⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
		○	⑨GPA分布状況	○	⑩成績分布状況（専門/共通）	○	⑪学修ポートフォリオ	○	⑫休学・留年・退学（除籍）率
			⑬標準修業年限卒業率	○	⑭実就職率				
			⑮その他（用いたものを全て記載してください）						
	いいえ								

（【2025年度】「国際文化学部1年生 第1Q末アンケート」5月30日実施）

IV - (2) 確認・検証の結果、学生の個別指導体制や方法について、前年度～今年度5月末までに改善や工夫、変更を行った点があれば具体的に記載してください。

【2024年度】ガイダンス期間などに単位修得状況に応じて学部教員による面談を実施している。【2025年度】2025年度新入生に関しては、5月30日に実施した「国際文化学部1年生 第1Q末アンケート」および「GPS-Academic結果」（IR提供「GPS要ケア学生リスト」）により、早急に個別面談実施体制を組むことができ、かつ学生に対してカリキュラムに関する基礎情報を適切に提供することができた。また、全学年について、1Q限定GPAの「0.00」を重視することによって、特に重視すべき個別面談対象者を絞り込むことができ、クォーター限定の「GPA」の有益性を確認できた。

IV - (3) 学生の個別指導体制や方法について、学部の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

【2024年度】面談の定期的な実施は効果的であると考えている。【2025年度】今回、5月30日に実施した「国際文化学部1年生 第1Q末アンケート」は、個別指導体制や方法を考えるうえでとても効果的であったと判断している。

IV-（４）学生の個別指導体制や方法について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）	
【2025年度】個別指導体制や方法について、例えば、全学年について、教員がゼミの学生の面談を漫然と全員と行うのではなく、目的別に応じた面談を設定し、さらに、面談を行う学生は、その必要度の最も高い順から行う、つまり、面談を行う学生の選択と集中を行う体制を作ることが必要であると感じている。このことは、教員の労力の減にもつながり、学生を多数の角度から見守る体制にもつながると思われる。	
V. 学生アンケートに基づく点検	
V-（１）前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述 <u>以外の</u> データから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。	
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点	人文学科では、DP4「他者理解と協働」、DP5「社会への関心と行動」は、他学部よりも高い成長実感を有しており、専門科目の講義内容やフィールドプログラム、ゼミ活動が寄与しているためと思われ、一層の充実を目指したい。また、長期フィールドワークの活動も成長実感に繋がっているものと思われ、国際文化学部の特徴といえる。 グローバル・スタディーズ学科では、「所属学部学科の入学を他者に勧めたい」とする回答が58.4%と高い位置にあり、「専門分野の勉強」(93.1%)、「卒業論文・卒業制作」(91.1%)と大学生活の総括となる領域で、肯定的に捉えられている。また、「教員(9-3)」「友人との人間関係(9-8)」など、学科内の人間関係に関しては肯定的に捉えている。
改善を要する点（予定時期も明記してください）	DP2「創造的思考・視点と考察」が、他学部よりも成長実感が低く、各講義の内容を振り返り次年度の授業に反映することが求められる。特に創造的思考については、批判的思考に偏っている可能性がある。カリキュラム、授業内容、教員、語学、留学、キャンパス環境、進路支援など様々な項目で改善の余地が見られるが、特にカリキュラムは、進級・卒業要件の分かりやすさ、授業目的の明確化、教員の質向上、語学教育方法の見直し、キャンパス環境の改善、進路支援の強化などが課題である。 人文学科各専攻では、語学・留学に関する満足度の低さ、グローバル事項への関心の低さ、授業内容や教員への満足度の低さなどの課題がある。特に日本文化専攻では、消極的な選択で専攻を選んだ学生がおり、卒業論文テーマ設定の自由度が高くなっていることが、満足度の低さに繋がっている可能性がある。各専攻内での状況共有や話し合い、未提出者への対応強化などが必要である。 GS学科では、「語学教育・支援」が喫緊の課題であり、カリキュラム改善に加え、講義での英語文献活用、演習やゼミにおける英語学習支援など、直接的な語学教育と学習内容への組み込みが必要。アフリカ・アジア専攻やグローバル共生社会専攻のカリキュラムや授業内容に対する満足度は高い一方グローバル関係専攻では低い傾向が見られ、ゼミでのカリキュラム説明や授業選択のアドバイス等の対応が必要である。
V-（２）前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。	
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点	人文学科の各専攻では、学生はゼミや専門教育を通して、知識・能力を深め、成長を実感している。歴史専攻ではグループワーク、社会専攻では専門科目、日本文化専攻ではコミュニケーション力や文章力といった能力向上に手応えを感じている。 グローバル・スタディーズ学科における実践的な学びが学生に強い成長実感をもたらしている。フィールドワークなどの体験型学習は、異文化理解や現場対応力を育み自律性・探究心を高める重要な機会となっている。「親身な指導」「実践経験に基づく授業」「教員との距離の近さ」などが、学生の満足度に直結している。ゼミや論文指導などを通して、学生が主体的に学び、研究へと踏み出すうえで大きな支えとなっていると評価している。
改善を要する点（予定時期も明記してください）	人文学科各専攻の改善策および予定時期は以下の通り。文学専攻：教員間や関連部署との情報共有・相談を通して、学生の不満を解決していく予定。歴史専攻：演習の運営方法を見直し（25年度から）、情報館の書籍充実を検討。社会専攻：カリキュラム説明の充実、講義演習方法の変更（25年度から）、フィールドワークや卒論査読に関する説明強化。日本文化専攻：ゼミ単位での就職活動支援を検討中（25年度から）。グローバル・スタディーズ学科ではカリキュラム設定に関する記載が見られ、特に語学学習機会の不足が大きな問題として指摘された。具体的な対策として、全学の語学科目の選択優先措置、TOEIC 対策講座の受講可能化、専門科目における外国語文献の使用などが挙げられる。カリキュラムの複雑さに対する理解も不足していることから、学生の声を積極的に聞き取りカリキュラムの全体像を明確に示すことが重要である。
VI. 学長改善指示に基づく点検	
VI-（１）前回自己点検報告等を受けて前年度に出された以下の学長指示に対し、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。	
当該学長指示→	退学率悪化の原因について、2024年度中に現状の分析結果と対応策を報告してください。
学生の居場所づくり、学生間、学生と教員間の円滑な人間関係構築に資する様々な取り組みが実施されている。授業期間中に1年生対象の学部開講必修科目の担当教員が月1回の初年次教育担当者会議にて情報を共有している。また、年2回の個別面談を実施し、学習状況だけでなく学生生活についても気軽に教員と相談できる環境を作った。	
当該学長指示②→	留年率上昇の原因について調査し、対応策を検討し、報告してください。（2024年度中）
全学共通教育必修科目での学生の学習状況を共有する仕組みを活用し、必修科目の担当教員のミーティングにおいて学習状況について共有し、学生およびゼミ担当教員への働きかけを行った。	

2025年度実施 部局別自己点検報告書（メディア表現学部）

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

I. 教学マネジメントに関する点検

I - (1) この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

○	はい →	会議体名称	学部運営会議	議事録有無	○
	いいえ				

I - (2) 現状の学部DPの適切性（所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

○	はい →	会議体名称	学部運営会議	議事録有無	○	
	いいえ					
		確認・検証を行った結果、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば、具体的に記載してください。			学部運営会議にて審議のうえ、25年度以降のDP1, 2, 3を修正した。	

I - (3) 現状の学部DPについて、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

現状は特になし、25年度からスタートした新カリキュラムについては適宜改善の必要性をチェックすることが必要。チェック時期としては各年度末を予定。

I - (4) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

2:検証を行い、整合性を概ね確認できた	会議体名称	学部教務委員会	議事録有無	○
---------------------	-------	---------	-------	---

I - (5) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

昨年度に関しては特になし。新カリの到達目標など作成に力を割いた。

I - (6) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

現状は特になし、25年度からスタートした新カリキュラムについては適宜改善の必要性をチェックすることが必要。チェック時期としては各年度末を予定。

I - (7) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

3:一定の理解・共有がされているが課題がある	回答根拠→	機会を持ちえなかった
------------------------	-------	------------

I - (8) DP,CP,APに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために前年度～今年度5月末までに行った取り組みがあれば、具体的に記載してください。

新入生ガイダンスに各教員が出席し、学生と共に上記について確認したほか、卒論卒制のルーブリック作成時に各専攻ごとに教員間で確認した。

I - (9) DP,CP,APに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

6月の教育課程編成会議で3つのポリシーについて全教員間で確認を予定している。

II. DPに基づいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、**アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと**を指します。

学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II - (1) アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の**学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全て**に○を選択してください。

<input type="checkbox"/> ①新入生アンケート結果	<input type="checkbox"/> ②キャンパスライフアンケート結果	<input type="checkbox"/> ③授業評価アンケート結果（学部）	<input type="checkbox"/> ④卒業時アンケート結果
<input type="checkbox"/> ⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	<input type="checkbox"/> ⑥必修科目修得状況（学部/全学）	<input type="checkbox"/> ⑦単位修得状況（専門/共通）	<input type="checkbox"/> ⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
<input type="checkbox"/> ⑨GPA分布状況	<input type="checkbox"/> ⑩成績分布状況（専門/共通）	<input type="checkbox"/> ⑪学修ポートフォリオ	<input type="checkbox"/> ⑫休学・留年・退学（除籍）率
<input type="checkbox"/> ⑬標準修業年限卒業率	<input type="checkbox"/> ⑭実就職率		
<input type="checkbox"/> ⑮学部別独自指標（活用したものを全て記載）→ （ ）			

II - (2) 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

学部運営会議、学部教務委員会で参照して議論した。

II - (3) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

2:十分な説明をし、学生の一定の理解を確認できた	回答根拠→	アカデミックスキル3でガイダンスを実施し理解度テストで確認した。卒論卒制のルーブリック設定に基づく採点結果を教員で共有した。
--------------------------	-------	--

II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？					
○	はい →	どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。	大学HP	○	学習のてびき2024 (当該ページを記載してください。) → p. 86-87
			○	その他 → (授業、ガイダンス等での配布資料)	
	いいえ				
II - (5) 学修成果の把握・検証および学生への説明について、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。					
完成年次のため卒制・卒論のルーブリックの利用を徹底した。それを受けて3専攻の実施状況に鑑み更にガイダンス内容を精査している。アセスメントプランに学部独自の学習成果の把握検証のための指標を設定した。					
II - (6) 学修成果の把握・検証および学生への説明について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。(予定時期も明記してください)					
6月16日をめぐりに上記ガイダンスをクラスプロファイルを通じて発信する予定。音声と静止画を使って行う予定。					
III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検					
IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検					
IV - (1) 各学部における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？					
○	はい →	会議体名称	学部運営会議	議事録有無	○
		確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓			
	○	①新入生アンケート結果	○	②キャンパスライフアンケート結果	○
	○	⑤GPS-Academic結果(思考力・経験等)	○	⑥必修科目修得状況(学部/全学)	○
	○	⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況(専門/共通)	
	○	⑬標準修業年限卒業率		⑭実就職率	
		⑮その他(用いたものを全て記載してください) ()			
	いいえ				
IV - (2) 確認・検証の結果、学生の個別指導体制や方法について、前年度～今年度5月末までに改善や工夫、変更を行った点があれば具体的に記載してください。					
入学直後に欠席がちになることがその後の休学、ひいては退学へつながる傾向を回避するために、入学前の3月半ばから、入学後、ゴールデンウィークまで、新入生と教員(希望者による)気軽な質問や不明点をコミュニケーションするツールとしてLINEのオープンチャットを開設。最終的に新入生170人中90人、教員も10人前後が参加し、活発なコミュニケーションを行った。特にガイダンス後に書き込みが急増し、授業開始前の時期に不明点が多数出るものの、教務チームや学生支援チームにも不案内のため、教員とのコミュニケーションを求める様子が明らかになった。来年度以降も継続実施する予定。					
IV - (3) 学生の個別指導体制や方法について、学部の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。					
同上					
IV - (4) 学生の個別指導体制や方法について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。(予定時期も明記してください)					
上記を受けて、9月のガイダンス時期に午前の教員からのガイダンスに引き続き、午後は1年生に対し、2年生以上の学生とのコミュニケーションを図るイベントを学生と共同で開催する予定。また、メディア情報/メディアイノベーション専攻では、2年生～4年生までで学生と教員の顔合わせ会をメディア情報専攻が主に使用する対峰館教室で4月に実施。非常に活発なやりとりがなされた。					
V. 学生アンケートに基づく点検					
V - (1) 前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述 以外 のデータから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。					
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点	数量的な結果はほとんど評価できる点は見当たらない結果となりとても残念であるが、学部として強みとしている「社会との接続」を表すDP5「社会への関心と行動」を特に伸ばしていければと考える。				
改善を要する点(予定時期も明記してください)	回収率の低さ、しかも全専攻で低いこと。成長実感が他学部に比して全般的に低い。特にカリキュラムの評価が低いのが新学部であること、また新カリキュラムが今年度よりスタートしたので、引き続きチェックしていく。				
V - (2) 前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。					
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点	音楽表現専攻…自主性が重んじられていて、自由度の高い学びができる。それに対して教員が、学生と向き合って教育している部分は、評価されている。 メディア情報専攻…社会や企業と連携や関わりを持つことで、成長できたと感じる学生が多かった。今後も社会と接続した授業などを積極的に実施していきたい。 イメージ表現専攻…分野横断型として幅広い学びがある。発想力が鍛えられる。学生自身が学びたいことを決め、技術や専門知識を得ていく環境がある。このような学びの環境が整備されていることに気づいていない学生もいるので、各学年に配るガイダンス資料等に記載していく。				

<p>改善を要する点（予定時期も明記してください）</p>	<p>音楽表現専攻…自主性のない学生には、学習の方針が不明確で学修すべきことが不明瞭に感じられているので、その点を検討する必要がある。クォーター制については、その長所が活用できていないため、学生からの不満も多い。カリキュラムや授業運営（ゼミや卒業制作研究）の方法について見直しも含めての検討が必要である。見直しの時期は、カリキュラム編成時期になる。また、施設、学習環境、ポータルを使いづらさなど、大学全体として取り組む課題が多い。</p> <p>メディア情報専攻…就職支援に手がかけられなかった。次期からは、早期の企業紹介や、企業へ求人の呼びかけに力を入れていきたい。固定の教室がなく、学生が留まる場所がなく、学生同士や教員とコミュニケーションが不足気味だった。授業外でも関われる機会を増やしていきたい。</p> <p>イメージ表現専攻…方針が定まっていないように感じる、連絡が遅いという意見があった。完成年次まで試行錯誤してきた箇所はこれから明確化し意思決定と連絡を滞りなく行う。すでに会議でアナウンスの時期について年間計画を立てている。専門性が得にくいと思われる点については、どのように履修計画を立てたらよいかを学生に理解されていないため、手に入れたい専門性に分けたカリキュラム・マップを制作し、2年前期から利用できるように周知していく。全体としては、カリキュラムや科目内容を見直し、専門分野の知識、スキル習得など、進路開拓に向けた内容を見直す。2025年度からのカリキュラム改革を踏まえ、学生に随時ヒアリングする機会を設け、さらに改善すべき問題点を把握していく。</p>
-------------------------------	--

VI. 学長改善指示に基づく点検

VI-（1）前回自己点検報告等を受けて前年度に出された以下の学長指示に対し、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。

<p>当該学長指示①→</p>	<p>退学率悪化の原因について調査し、退学防止対応策を検討し、報告してください。（2024年度中）</p>
-----------------	---

学長室グループと協働し、入学年次別に学生の休退学並びに留年の状況を1年から4年まで動態として捉え、どの時期がボトルネックなのかを量的に把握した上で、質的なデータとして退学届の事由を参照し、対策を練ることを計画し、量的把握について着手した。

<p>当該学長指示②→</p>	<p>留年率上昇の原因について調査し、対応策を検討し、報告してください。（2024年度中）</p>
-----------------	---

①に同じ

2025年度実施 部局別自己点検報告書（芸術学部）

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は**2024年4月～2025年度5月未まで**の教育・研究活動です。

I. 教学マネジメントに関する点検

I - (1) この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

○	はい →	会議体名称	芸術学部運営会議 芸術学部教授会	議事録有無	○
	いいえ				

I - (2) 現状の学部DPの適切性（所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か）について、前年度～今年度5月未までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

○	はい →	会議体名称	芸術学部教授会	議事録有無	○
	いいえ				
		確認・検証を行った結果、前年度～今年度5月未までに改善や変更を行った点があれば、具体的に記載してください。		芸術学部教授会においてDPについて確認・検証を実施し適切性を確認した結果、細かな文言の修正、及び社会への関心と行動については、学びを応用して社会への問題提起に自らの表現で取り組むと修正し、表現と適切につながる文言へと変更を行った。	

I - (3) 現状の学部DPについて、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

24年度に確認・検証の結果、変更をした事から、現状の学部DPにおいて特に問題はない。

I - (4) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月未までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

2:検証を行い、整合性を概ね確認できた	会議体名称	芸術学部教授会	議事録有無	○
---------------------	-------	---------	-------	---

I - (5) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月未までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

カリキュラムポリシーの(1)教育内容について、3年次では専門を深化させるに加え、学部における共通教育が担う領域横断的な科目についても文言を加え修正を行った。

I - (6) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

現状で特に問題はない。

I - (7) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

1:非常に深く理解・共有されている	回答根拠→	各学年ガイダンスでの説明を各教員が順番に担当しているため。
-------------------	-------	-------------------------------

I - (8) DP,CP,APに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために前年度～今年度5月未までに行なった取り組みがあれば、具体的に記載してください。

・学期初めの各学年全体ガイダンス説明を各教員が順番に受け持つことにより、学生へ伝えるべき重要な内容、ポイントを整理した上で伝えるため、DP,CP,APに基づく学部の教育について各教員の理解が深まっているため、継続して実施していきたい。また各専攻内での説明時（学生、非常勤講師、助手含む）においても効果的に機能している。さらに4年次ゼミなど学部共通での科目においても、各教員が担当し、説明会の実施や全体での成績管理に関わることで、学部全体において、共通教育での取り組み、ルーブリックについても理解が深められている。
・FD研修会を通じて、教学改革、カリキュラム改革の一部として主に3年次での教学内容の構造を見直し新たな取り組みの可能性について検討し、理解を深めた。
また、25年度以降の新カリキュラムについての具体的な検討と調整を運営会議を中心に実施し、共通教育と専攻での専門教育の内容について検討を行い、FD研修会において、これまでの体幹教育を振り返り2025年よりの新カリにおいてどのように教員が関わり、2年次以降の各専攻での教育との連携を図るのかについて可能性を確認し、学部の教育構造の理解を深め、新カリキュラム内容を検討する上でも良い機会となった。

I - (9) DP,CP,APに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

・上記I-(8)回答のように、各学年の全体ガイダンス説明を各教員が順番に受け持つ体制を継続していきたい。さらに理解を深めるためにガイダンスだけでなく、授業開始時などの説明においても検討を進めていきたい。
・FD活動において学部全体のカリキュラムへの理解を深めるために、講義を中心とした共通教育において実習との関連を確認し、今後のカリキュラムへの可能性を検討していきたい。

II. DPに基づいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、**アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと**を指します。

学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II - (1) アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月未までに学生の**学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全て**に○を選択してください。

<input type="radio"/> ①新入生アンケート結果	<input type="radio"/> ②キャンパスライフアンケート結果	<input type="radio"/> ③授業評価アンケート結果（学部）	<input type="radio"/> ④卒業時アンケート結果
<input type="radio"/> ⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	<input type="radio"/> ⑥必修科目修得状況（学部/全学）	<input type="radio"/> ⑦単位修得状況（専門/共通）	<input type="radio"/> ⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
<input type="radio"/> ⑨GPA分布状況	<input type="radio"/> ⑩成績分布状況（専門/共通）	<input type="radio"/> ⑪学修ポートフォリオ	<input type="radio"/> ⑫休学・留年・退学（除籍）率
<input type="radio"/> ⑬標準修業年限卒業率	<input type="radio"/> ⑭実就職率		
<input type="radio"/> ⑮学部別独自指標 → 展示発表実績、在学中受賞実績			

II - (2) 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

「GPS-Academic」、「キャンパスライフアンケート」、「卒業時アンケート」、「授業評価アンケート」、「新入生アンケート」結果については、各専攻にて確認、分析を行い、学部運営会議、教授会にて全体で各専攻の状況を共有し、学習成果の把握と検証を行った。
 「GPA」、「単位習得状況」、「必修科目修得状況(学部/全学)」、「休学・留年・退学(除籍)」、「ルーブリック評価(卒業制作)」については、毎月、各クォーター、年度末において学部運営会議、教授会で詳細に確認し、都度確認と対応を繰り返し学習成果の把握と向上に繋げている。
 「学習ポートフォリオ」については、教員が学期初めの学生との面談の際や履修登録時の相談などにおいて、状況を確認しながら行っている。
 「実就職率」については、各タイミング、年度末において状況の確認を行い、より良い効果が出るように情報共有の促進、改善を行っている。

II - (3) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

2:十分な説明をし、学生の一定の理解を確認できた	回答根拠→	各学年ガイダンス、4年ゼミ説明会、授業開始時などでの説明をより意識的にし、学生へ伝えたため。
--------------------------	-------	--

II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

○	はい →	どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。	○	大学HP	○	学習のてびき2024（当該ページを記載してください。） →	p.	110,111
				その他 →具体的に右に記載してください。（				）
	いいえ							

II - (5) 学修成果の把握・検証および学生への説明について、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。

アセスメントプランとして、展示発表実績、在学中受賞実績を設定し、学習成果の把握・検証についての指標を設けた。また、より学生が探究心を持って、研究、展覧会に取り組んで行きやすいように、研究・展覧会等補助費を設け実施した。
 卒業制作展における評価の取り組みとして、学部において「奨励賞」を検討し、設定及び実施した。

II - (6) 学修成果の把握・検証および学生への説明について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

展示発表実績、在学中受賞実績についての情報集約について、大学内の各部署との連携も含めた検討を進めていきたい。検討及び実施時期は2025年7月～2026年5月を予定。
 アセスメントプランと関連する展覧会補助費、研究サポートへの充実として対応を引き続き検討し行っていきたい、検討及び実施時期は2025年10月～2026年3月を予定。
 卒業制作展における学部独自の賞設定の充実を継続し検討していきたい、検討及び実施時期は2025年10月～2026年2月を予定。
 またこれに加え学生の主体的な取り組みにおける展示発表や研究活動に対する評価を学部にて検討していきたい、検討及び実施時期は2025年10月～2026年5月を予定。

III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

IV - (1) 各学部における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

○	はい →	会議体名称	学部教授会、運営会議	議事録有無	○			
		確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓						
	○	①新入生アンケート結果	○	②キャンパスライフアンケート結果	○	③授業評価アンケート結果（学部）	○	④卒業時アンケート結果
		⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	○	⑥必修科目修得状況（学部/全学）	○	⑦単位修得状況（専門/共通）	○	⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
	○	⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）	○	⑪学修ポートフォリオ	○	⑫休学・留年・退学（除籍）率
		⑬標準修業年限卒業率	○	⑭実就職率				
	○	⑮その他（用いたものを全て記載してください） →		（学籍異動書類、配慮申請書類）				
	いいえ							

IV - (2) 確認・検証の結果、学生の個別指導体制や方法について、前年度～今年度5月末までに改善や工夫、変更を行った点があれば具体的に記載してください。

・新入生の入学直後の不安を解消するため、同級生・先輩とのつながりを作る仕組みとして「学生支援プロジェクト」を実施した。新1年生は、授業内で上級回生がファシリテーターとして入りながら学生生活の不安や質問を受ける支援プロジェクトを2025年5月に実施した。また2年次に新たに専攻所属となった新2年生においても各専攻（日本画、立体造形、陶芸、テキスタイル、版画）にて同級生・先輩との交流としてのコミュニケーションWS等を2025年4月5月に実施した。
 ・学生支援の一環として、授業以外に学生が自身の研究を発表・探究をするにあたり、学部内において、学生の自主的な活動に対する、各種発表、研究、探求などの支援を目的としたサポートプロジェクトを検討し実施した。

IV - (3) 学生の個別指導体制や方法について、学部の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

・昨年度に引き続き、多様性を重んじ各学生それぞれの状況に合わせた、柔軟な取り組みにより個別対応でサポートしていく以下の体制について一定の効果があった。
 1年生は共通教育担当の教員がクラス担任として学生の相談に応じる体制を継続して取っている。2年生以上の専攻においては、各専攻教員がクラス担任として学生の相談に応じる体制を取っている。学生の遅刻や欠席体調不良などの状況変化に応じ、適切なタイミングで声がけし個別面談を実施する、個別にサポートする体制を取っている。また4年次はゼミ制を取っているため専攻以外の個別各教員も学生個別の指導についてサポートできる体制をとっている。また各専攻においては必要に応じて、教員と助手がサポートしつつ学生支援が円滑に行えるように配慮する体制を取っている。
 ・進級要件科目出席状況についてゲートルスプレッドシートで学部内共有し、担当外の科目の状況も把握。欠席が続く学生には担任より指導。改善されない場合は再度面談を実施し、学生の状況把握に努めている。
 ・上記の状況に応じて教務チーム・学生支援チームと共有し対応を行っており、個別相談内容によっては、適切な部署（資格課程、グローバル、言語学習支援室）と共同し対応することを継続しており一定の効果があった。
 ・学生支援の一環として、授業以外に学生が自身の研究を発表・探究をするにあたり、学部内において発表の場所・機会構築としてドラフトギャラリーでの自主企画展示のサポートや学内外施設での発表機会のサポートを継続しており発表の機会へと繋がった。また、発表の成果に関する成長実感を持たせることになり効果的であった。
 ・安全な制作環境の整備について、各専攻および共通教育1年生体幹での実習室、工房などの制作環境において学部内でより安全な環境を整備することを目的とし、安全管理を再確認し説明及び使用方法の注意点をまとめ検討を行なった。引き続き改善を重ね、学生へ安全な制作環境について説明と実施を継続して行なっていく予定である。

IV-（４）学生の個別指導体制や方法について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

学生の個別指導体制・支援体制については、学生個別に柔軟に対応を進めサポートする体制が必要である。これまでも教務チーム、学生支援チームを中心に学部が連携し学生指導体制、支援体制を構築してきたが、よりその体制を強化していく必要があると考えている、特に学部の特徴に合ったサポートについて情報共有の機会を増やし、学部と各部署で学生のサポートを充実させより効果的に連携するさらなる協力体制構築が必要があると考えている。2025年7月～2026年5月を予定している。

V. 学生アンケートに基づく点検

V-（１）前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述**以外**のデータから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

<p>評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「全体成長実感」、「精神的自立実感」ともに全学平均より高く、「DP成長実感」においても全学平均をわずかに上回るあるいはほぼ同じとなっており、成長実感全体で問題がなく評価できる。また、「カリキュラム評価」と「建学理念実践意欲」については全学平均を大幅に上回っており、今後も充実したカリキュラム検討を継続し、芸術学部における教育内容を伸ばしていきたい。 ・成長への貢献度として、7-3.「卒業制作」において成長に貢献した数値が高く、学習時間、進路、納得度項目の8.「週間自習時間」も時間が多い結果となり、4年次での卒業制作に集中し取り組んだ結果となっている。 ・成長への貢献度7-8.「公務員・教員採用試験の勉強」についても数値が高いことから、教員から教育などについての情報提供やサポートを継続していきたい。 ・最終満足度において、「カリキュラム」、「授業内容」において満足度が高く、特に「教員」の数値が高いことから、丁寧な指導、個別に合った指導を継続していきたい。 ・「所属学部学科推奨度」、「入学納得度」も高く、特に入学納得度がかなり高評価であることは大変良かった、さらに充実させていきたい。 ・学部学科推奨度に、「教員」について「専攻」、「手広い」、「手厚い」とあり、どの教員も強く自覚を持って教育活動にあたっていることから、さらなる特徴となるように教育活動を行ない伸ばしていきたい。
<p>改善を要する点（予定時期も明記してください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成長に効果を感じた点での問いに対して、「留学・フィールドワーク」の項目では回答がないため、今後より積極的にガイダンス時に交換留学について説明の機会を増やしたい。これに関連する可能性として、成長への貢献度7-4a「語学の勉強（国内学生）」について、成長への貢献度が低い、また7-5「留学・留学準備」においても低い結果となっているため、全学共通での語学教育だけでなく、学部専門において制作と作家活動に必要な語学教育などその他のプログラムが持てないかを検討したい。検討および実施時期は2025年7月～2026年5月を予定。 ・成長への貢献度、7-7.進路開拓や就職に向けた準備について平均より少し低いため、キャリア関連の情報提供や教員との面談相談を継続していきたい。検討および実施時期は2025年7月～2026年3月を予定。

V-（２）前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

<p>評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価できる点として教員のサポートによる評価が多く、「教員が個々の学生に寄り添ってくれる」、「制作や進路について相談しやすく、自分自身の成長に繋がった」、「教員との距離が近く、画力や価値観のアップデートに最適の環境」、「教員の技術が高く指導もすぐわかりやすい」、「教職員のサポートも手広くさまざまな活動することができる」、「知識だけではなく、人間関係や社会に出てからの人との関わり方なども勉強できた」などがあり、教員が学生の自由な発想と制作をサポートしている事がアンケートの結果からも伝わり、さらに伸ばしていきたい点でありこれからも適切なサポートを継続していきたい。 ・また、教育環境で評価するコメントも多く、「自分が取り組みたいことを探す機会と環境がそろっている」、「制作に集中できる環境が整っている」、「共通教育で横断的に学び、柔軟性や発想力、多角的に思考力を身につけた」、「授業で他の生徒と交流する機会を取り入れることで、自分では気付かない要素に気付けたたくさんコミュニケーションが取れた」、「発想が豊かになったように思う。自分の方向性を見つけられた」、「一年目は専攻を選ばずに、体幹教育と自分が選びたい専攻の専門授業を受けることができる。入学時点で何を専攻したいかが決まっていなくても、実際に色々体験しながら決められる点」など、芸術教育においてまた学部が目指す教育目標につながっていると再認識できる点でもあり、さらに自由な制作や研究が行える教育環境を整えていきたい。
<p>改善を要する点（予定時期も明記してください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クォーター制に関して、「色々な授業を取れて、幅広い興味を持ちやすくていいこと、結果的に、自分がしたいこと・学びたいことを広く探すといい点で有意義だった」、「1つの授業内容を掘り下げる時間があまり持てなかった」などそれぞれに効果的であった点、改善が必要な点のコメントがあった。25年度よりは主に必修実技を中心これまでよりも制作時間が確保できるように対応している。 ・設備、教育環境での改善点コメントが多く、「雨漏り」への対応、「実習室環境の改善」への対応、「設備機器の改善」への対応が求められているため、適宜対応を各部署と連携し進めていきたい。検討および改善実施時期は2025年7月～2026年3月を予定するが対処の範囲が大きいものについては継続となる。

2025年度実施 部局別自己点検報告書（デザイン学部）

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

I. 教学マネジメントに関する点検

I - (1) この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

○	はい →	会議体名称	デザイン学部運営会議	議事録有無	○
	いいえ				

I - (2) 現状の学部DPの適切性（所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

○	はい →	会議体名称	デザイン学部運営会議	議事録有無	○
	いいえ				
		確認・検証を行った結果、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば、具体的に記載してください。		確認・検討を行った結果、改善や変更点はなかった。	

I - (3) 現状の学部DPについて、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

25年度より新カリキュラムが始まったが、6月の学部運営会議で改善についてデザイン学部学科長に問いかけを依頼し、7月の学部運営会議で意見を集約する。

I - (4) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

2:検証を行い、整合性を概ね確認できた	会議体名称	デザイン学部運営会議	議事録有無	○
---------------------	-------	------------	-------	---

I - (5) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

変更や改善点はなかった。

I - (6) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

「DPとの相関の有無」で3つ以上に印が付けられているシラバスがある。6月の学部運営会議で見直しの依頼、7月の学部運営会議で修正する科目の報告を受けて、教務チームに修正を依頼。26年度シラバスに反映させる。

I - (7) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

2:十分に理解・共有されている	回答根拠→	毎年、7月のデザイン学部教授会で共有している。
-----------------	-------	-------------------------

I - (8) DP,CP,APIに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために前年度～今年度5月末までに行った取り組みがあれば、具体的に記載してください。

2024年7月25日に、「各学科・コース・ゼミにおける卒業制作の進捗管理方法について」のFD研修会を行い、「卒業制作・卒業論文」のルーブリックを補完する策として、学生個々の作品の進捗状況を保存しながら制作の進行と成長し、盗作の防止にも役立つ仕組みを学部共通で実施。（25年度継続）
2025年2月27日に、「大学改革・国際化に何が求められるのか -そしてデザイン教育・研究について-」のFD研修会を行い、学部教員全体でこれからのデザイン学部が目指すべき独自の方向性やデザイン教育のあり方について意見交換を行った。
2025年5月29日に、「自己点検とIRデータの見方」についてFD研修会を行い、24年度中に実施された新入生アンケート、キャンパスライフアンケート、卒業時アンケート、GPSアカデミックの結果をもとに1年間の振り返りを行うとともに、分析結果のカリキュラム運営や学生募集活動への有効活用や数値化が難しい制作系の学修成果の測定と教育の質の改善について意見交換を行った。

I - (9) DP,CP,APIに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

25年度末にFD研修会を行う予定。

II. DPに基づいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、**アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと**を指します。
学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II - (1) アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したものを全てに○を選択してください。

○	①新入生アンケート結果	○	②キャンパスライフアンケート結果	○	③授業評価アンケート結果（学部）	○	④卒業時アンケート結果
○	⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	○	⑥必修科目修得状況（学部/全学）	○	⑦単位修得状況（専門/共通）	○	⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
○	⑨GPA分布状況	○	⑩成績分布状況（専門/共通）	○	⑪学修ポートフォリオ	○	⑫休学・留年・退学（除籍）率
○	⑬標準修業年限卒業率	○	⑭実就職率				
⑮学部別独自指標（活用したものを全て記載）→ （ ）							

II-（2）前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

①新入生アンケート結果：全学教員会議、学部運営会議での報告と改善の指示。②キャンパスライフアンケート結果：全学教員会議、学部運営会議での報告と改善の指示。④卒業時アンケート結果：全学教員会議、学部運営会議での報告と改善の指示。⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）：全学教員会議、学部運営会議での報告と分析。⑥必修科目修得状況（学部/全学）：学部運営会議での報告と履修指導の指示。⑦単位修得状況（専門/共通）：学部運営会議での報告と履修指導の指示。⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）を卒業制作の最終評価時に利用している⑨GPA分布状況：学部運営会議及びオリエンテーション時の個人面談で改善の指示。⑩休学・留年・退学（除籍）率：全学教員会議での報告と改善の指示。⑪実就職率：全学教員会議での報告と改善の指示。
 総括的な振り返りとして、①新入生アンケート結果、②キャンパスライフアンケート結果、④卒業時アンケート結果、⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）を元に、2025年5月29日に「自己点検とIRデータの見方」のFD/SD研修会を行った。

II-（3）学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

2:十分な説明をし、学生の一定の理解を確認できた 回答根拠→ 前期、後期でのオリエンテーション時での説明、面談等を実施

II-（4）DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

○	はい →	どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。	大学HP	○	学習のてびき2024（当該ページを記載してください。）	p.	110
			その他 →具体的に右に記載してください。		()		
いいえ							

II-（5）学修成果の把握・検証および学生への説明について、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。

アセスメントプランにデザイン学部独自の学習成果の把握検証のための指標を設定した。また、1年生と3年生に「GPS-Academic」の受検の徹底と4年生の卒業時アンケートの受検の徹底を行った。□

II-（6）学修成果の把握・検証および学生への説明について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

アンケートの参加率を上げる。それらのアンケート結果によって何が改善されたのか具体的に学生に示す。

III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

IV-（1）各学部における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

○	はい →	会議体名称	メールによる各コースのピアサポート状況確認、学部運営会議	議事録有無	○	確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓	
		○ ①新入生アンケート結果		○ ②キャンパスライフアンケート結果	○ ③授業評価アンケート結果（学部）	○ ④卒業時アンケート結果	
		○ ⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	○ ⑥必修科目修得状況（学部/全学）	○ ⑦単位修得状況（専門/共通）	○ ⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）		
		○ ⑨GPA分布状況	○ ⑩成績分布状況（専門/共通）	○ ⑪学修ポートフォリオ	○ ⑫休学・留年・退学（除籍）率		
		○ ⑬標準修業年限卒業率	○ ⑭実就職率	()			
		⑮その他（用いたものを全て記載してください）					
いいえ							

IV-（2）確認・検証の結果、学生の個別指導体制や方法について、前年度～今年度5月末までに改善や工夫、変更を行った点があれば具体的に記載してください。

グラフィックデザインコースはカリキュラムや相談対応の工夫を共有し、隙間時間での声かけ・個別相談を重視。PD学科は3年次後期に仮ゼミ制を導入し、前期も専任担当制としたほか、非常勤講師との連携強化も継続する方針。イラスト学科は各種データを活用した個別対応、教員間の情報共有、定期面談で指導体制を整備した。建築学科は教員の丁寧な指導・親身な相談対応を徹底した。

IV-（3）学生の個別指導体制や方法について、学部の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

VD学科は、隙間時間を活用した学生への声かけや小規模な個別相談で、学生が気軽に相談できる環境を整備を進めている。
 イラスト学科は、進路面談で学修ポートフォリオ作成を支援し、学生の個性や進路希望に応じた柔軟かつ多角的な個別指導を実施している。
 建築学科は、高い満足度を維持しつつ教育現場のさらなる向上を目指す方針。

IV-（4）学生の個別指導体制や方法について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

25年度新カリキュラムにおいて、イラスト学科、プロダクトデザイン学科、建築学科は専攻制となった。2年次から専攻に分かれるに際し、1年生の学年末の専攻分けについては学生にとって公平であること、不利益が生じないことが大前提となるため、専攻分けのプロセスについてはルールが明確であること、その周知徹底が求められる。
 今年度以降の改善課題として、建築学科は海外研修・国際交流への不満を解消するため、2025年度以降に海外ワークショップや交流、視察を計画し改善を図る。また、進路情報不足の声に対し、キャリア講座などで就職意識向上と情報提供に努める方針。グラフィックデザインコースは就職活動への相談体制強化が課題。イラスト学科では、留学生の日本語理解力向上支援や、授業内容理解とコミュニケーションの円滑化が重要課題。来年度からの新専攻導入により、クラス分けの学生希望反映や業界専門家からの学び機会の改善が期待される。PD学科は特になし。

V. 学生アンケートに基づく点検	
V-（1）前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述 <u>以外</u> のデータから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。	
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点	カリキュラム最終満足度、授業最終満足度、教員最終満足度、所属学部学科推奨度、入学納得度の満足度が全国の芸術系他大学の水準を大きく上回ったことが挙げられる。カリキュラム運営、学生サポート、教授内容・方法などの面において日頃の教職員の活動が総合的に評価されたものと認識している。
改善を要する点（予定時期も明記してください）	「7-2.教養を身に着けるための勉強」、「7-7.進路開拓や就職に向けた準備」の項目でポジティブ回答の向上に向けて、現在学部共通科目の強化に取り組んでおり、進路選択やキャリア形成、プロジェクト活動の基盤形成を目的とした科目の開講は改善策の一つと考えている。その他に、事務局と学部での連携や学生向けの情報共有を密に行うことについて検討が必要と考える。
V-（2）前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。	
評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点	制作における自由度が高いこと、幅広く学べること、自己の成長実感が得られていること、制作環境が充実していること、教員とのコミュニケーションが取りやすいこと等が評価できる点である。
改善を要する点（予定時期も明記してください）	実習室等の施設・設備等の制作環境について、広さや機器・備品に関する意見については、対応、検討する必要があると認識している。 成績、履修、単位修得に関しての情報提供について、学生が混乱しないよう、わかりやすく伝えるように改善が必要。 卒業後の進路支援に関しては、学生の進路、就職に対する意識を上げると同時に、大学全体の支援と学科・コースによる支援について、情報の提供に努めたい。 学科・コースで、習得したいとの要望があったスキルや技法についてはカリキュラムの中で科目の内容等の検討を行う。
VI. 学長改善指示に基づく点検	
VI-（1）前回自己点検報告等を受けて前年度に出された以下の学長指示に対し、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。	
当該学長指示②→	留年率上昇の原因について調査し、対応策を検討し、報告してください。（2024年度中）
<p>2019年から2023年にかけて在学者数増加に伴い留年者も増加している一方、退学者は減少しており、退学ではなく留年を選択する学生が増えている可能性がある。留年増加の主な要因は、PD学科と建築学科の2年生と3年生に集中していること、4Qに多くの留年者が発生していること、そして課題の難易度や学生の学習能力・環境の問題などが考えられる。特に必修科目を落としている学生は、授業についていけない可能性や大学に通えない可能性も懸念される。</p> <p>具体策としては以下の通り。丁寧な学生指導、実習アシスタント制度による縦のつながりの強化、入試改善（学力だけでなく、ポートフォリオ、面接、課題提出などの多面的評価）および教育の質が担保できる志願倍率の確保、教員による学業サポート、専門職員によるメンタルケア、専門部署による留学生支援など。また、SNSを中心としたデジタルマーケティングによる広報活動を強化し、日々のニュースや学生の活動をリアルタイムで発信し、大学の魅力を多くの層に伝えることなどを想定している。</p>	

2025年度実施 部局別自己点検報告書（マンガ学部）

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

I. 教学マネジメントに関する点検

I - (1) この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

○	はい →	会議体名称	学部運営会議	議事録有無	○
	いいえ				

I - (2) 現状の学部DPの適切性（所属学部・研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

○	はい →	会議体名称	学部運営会議	議事録有無	○	← 7月以降の会議から議事録作成を始めたためこの時点ではなし
	いいえ					
		確認・検証を行った結果、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば、具体的に記載してください。		6月学部運営会議で3つのポリシーの検証をした結果、2025年度以降のカリキュラムに合わせ、DP 1, 2, 3を修正した。		

I - (3) 現状の学部DPについて、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）
基本的には問題無いと考えているが、新カリキュラムとの整合性を検証し、必要があれば修正を加えていく。
7月中に検証予定。

I - (4) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

3:検証を行い、整合性があるが改善の余地がある	会議体名称	学部運営会議	議事録有無	○
-------------------------	-------	--------	-------	---

I - (5) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

2025年度からの新カリキュラムについて、関連するDPとの整合性を意識し「授業の目的・到達目標」を作成した。
その際、他大学のシラバス作成マニュアルを参考にするとともに、学部において到達目標作成ガイドラインを作成し、それを基に設定および検証作業を行った。

I - (6) 学部DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

2025年度からの新カリキュラムについて、実際に授業を運営した結果を踏まえて、問題点が見つかれば修正を加えていく。
また、2026年度以降開講予定の科目についても「授業の目的、到達目標」を再検証し、問題があれば改善していく。7月～8月に検証予定。

I - (7) 学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

3:一定の理解・共有がされているが課題がある	回答根拠→	教務主任、学科長、コース教務委員は、DPと到達目標の整合性を意識しシラバスの確認作業をしている。また、学部FDにおいて、ポリシーと到達目標の関係について共有しているが、理解度は教員によりまちまちである。また、授業を担当する非常勤講師に対しては、その意義を共有する場が無く、理解度の確認もできていない。
------------------------	-------	--

I - (8) DP,CP,APIに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために前年度～今年度5月末までに行った取り組みがあれば、具体的に記載してください。

24年度6月には「大学の質保証と3つのポリシー」というタイトルでFDを実施し、3つのポリシーの重要性と学習成果について確認した。
12月には「成績評価について」のFDを学部内で実施し、シラバスにおけるDP・到達目標・評価基準の関係について整理し確認した。

I - (9) DP,CP,APIに基づく自学部の教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

学部教員会議、またはFD研修等を通じて、3つのポリシーとシラバスの到達目標、成績評価基準に関しての理解を深めていきたい。

II. DPに基づいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、**アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと**を指します。
学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II - (1) アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したものに○を選択してください。

○	①新入生アンケート結果	○	②キャンパスライフアンケート結果	○	③授業評価アンケート結果（学部）	○	④卒業時アンケート結果
○	⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	○	⑥必修科目修得状況（学部/全学）	○	⑦単位修得状況（専門/共通）	○	⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
○	⑨GPA分布状況	○	⑩成績分布状況（専門/共通）	○	⑪学修ポートフォリオ	○	⑫休学・留年・退学（除籍）率
○	⑬標準修業年限卒業率	○	⑭実就職率				
	⑮学部別独自指標（活用したものを全て記載）→						

II - (2) 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

【学部全体】⑥⑦⑨⑪⑬欠席の多い学生やGPAの低い学生に対して面談を実施し、学修状況に注意が必要な学生へ個別指導を行った。②⑤分析結果を学部運営会議で参照、共有を行った。

【新世代】①③④課題に時間がかかったり、量が多いという意見に対して、課題制作にかかる負担を調整するなどし、授業内容改善に活用している。

【キャラクターデザイン】③⑥⑦⑧は授業運営における難易度とバランス調整の指標としている。⑧の導入後は学生ヘルプブリックの周知を行い、指標を持たせた上で正確な評価を行えるよう毎年改善を行なっている。ルーブリック評価の成果もあって、学生の意識改善に繋がり、制作だけでなく展示への意識向上によって展示（作品発表）の質が年々上がっている。

【アニメーション】③授業のレベルをもう少し強度をあげて欲しいという希望に対して、3年次実践実習（作画クラス）などで通常クラスに加えてエキスパートクラスを設定した。⑭アニメーション学科の就職率についてOC等や学部説明会にて来学者に共有することで理解度の向上を図っている。

II-（3）学部の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

4:説明をしたが十分でなく、改善する必要がある	回答根拠→	学部の教育目標をベースに、各コースでさらに具体的な人材育成目標に落とし込み、オリエンテーション時に説明を行っている。また、履修登録時にはシラバスをしっかりと確認することを促している。 個別の授業におけるDP、CP、「授業の目的、到達目標」の間の整合性についての説明は十分ではないと思われる。
-------------------------	-------	--

II-（4）DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

○	はい →	どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。	○	大学HP	○	学習のてびき2024（当該ページを記載してください。）→	p.	139、140
				その他 →具体的に右に記載してください。		()		
	いいえ							

II-（5）学修成果の把握・検証および学生への説明について、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。

【学部全体】多人数教科「動態描写技法」「パース技法」は毎回のレジュメづくりと採点業務に追われ、学生に対しなかなかフィードバックができなかったが、オフィスアワーの活用やクラスプロファイルで出来る限りのフィードバックを始めている。また、アセスメントプランにマンガ学部独自の学習成果の把握検証のための指標を設定した。

【カートゥーン】これまでは専任特任のゼミの教員によって学修状況の把握やフォローを行ってきたが、昨年度から定期のコース会議に於いて、2年生必修授業を担当する非常勤講師からの情報を共有し、注意が必要な学生には早めに面談を実施するようにした。

【ストーリー】卒業制作における「中間報告」の導入、25カリ1年生必修課題毎の簡易ルーブリック評価・フィードバックの試験導入を行っている。

【新世代】ゼミにおいては学生へのフィードバックと説明を実施している。その他科目においては、オフィスアワーを活用して課題の評価などフィードバックできることを明示しており、利用する学生が増えてきている。

【キャラクターデザイン】非常勤を含むコース教員でコース学生の学修状況を共有し、都度ケースバイケースで学生のフォローを行っている。現状はこの方法でほぼ問題なく機能しているが、情報交換を行いながら改善点があれば対応していく。

【アニメーション】新入生のオリエンテーション時において、学習のてびきの説明を前年度よりも強化した。学生のアニメ映像作品に対する社会的評価を可視化するため、各種アワードの応募時期などを共有し応募を誘導した。

II-（6）学修成果の把握・検証および学生への説明について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

【カートゥーン】必修授業の情報を集約し、注意が必要な学生に関して、早めに把握しコース全体で注視し状況把握に努めているが、今後、より緻密な対応ができるよう改善を進める。

【ストーリー】各学年・各学生へのフィードバックシステムの検討と導入を進める。

【新世代】オフィスアワーを使って、学生全員へ課題評価のフィードバックができるように進める。

【キャラクターデザイン】相談担当教員に関する情報の周知徹底や、学生からよく寄せられる質問へのQ&A情報の掲載を進めることで、学生が必要な情報に容易にアクセスできるようになるとともに、教員との関わりがより円滑になるよう改善する。

【アニメーション】学生が能動的に教員に相談できる環境づくりを進める。

III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

IV-（1）各学部における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

○	はい →	会議体名称	学部教員会議	議事録有無	○	確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓			
		○	①新入生アンケート結果	○	②キャンパスライフアンケート結果		③授業評価アンケート結果（学部）	○	④卒業時アンケート結果
		○	⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）		⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
			⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ		⑫休学・留年・退学（除籍）率
			⑬標準修業年限卒業率		⑭実就職率				
			⑮その他（用いたものを全て記載してください（						）
	いいえ								

IV-（2）確認・検証の結果、学生の個別指導体制や方法について、前年度～今年度5月末までに改善や工夫、変更を行った点があれば具体的に記載してください。

【学部全体】新入生の入学直後の不安解消のための取組として、新入生歓迎イベントを5-6月にかけて学生主体で実施した。

【カートゥーン】教員と学生がコミュニケーションを取りやすい雰囲気を作る。具体的な取り組みとして、今年度1Q終了時に懇親会を実施した。今後も継続する予定。

【新世代】1回生面談において、学習意欲や学生生活に関する情報を確認し、メンタルが弱そうな学生や私生活に問題がありそうな学生を抽出して指導に役立てた。

IV-（3）学生の個別指導体制や方法について、学部の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

特になし。

IV-（4）学生の個別指導体制や方法について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

学生相談や指導の際に特定の教員に集中しがちで、その教員の負担は大きくなっている。また、教員や助手では対応しきれない場合があり、個別指導体制を整備する必要がある。

V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1）前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述**以外**のデータから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、学部の特徴として 更に伸ばしたい点	「全体成長実感」「DP成長実感」についてポジティブ回答を得られているのは評価できる。学生と教員の距離が近いのが学部の特徴なので、今後も学生が成長を実感できるような指導をしていきたい。
-----------------------------	---

改善を要する点（予定時期も明記 してください）	「所属学部学科推奨度」は83.3%ではあるがアンケートの中では低い数値なので、今年度の卒業時アンケートの「所属学部学科推奨度」が上がるよう、これまで以上に学生への丁寧な対応と指導を心がけ、満足度を上げていきたい。
----------------------------	--

V-（2）前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、学部の特徴として 更に伸ばしたい点	コロナ期に入学した学生であるため、また学部の特徴として個人制作が多い中で、グループワークによりコミュニケーション能力が上がったということ、教員の丁寧な対応と指導があったという回答が複数あった。今後も続けていきたい。
-----------------------------	---

改善を要する点（予定時期も明記 してください）	クォーター制のため、授業や制作に力を注ぎきれないなど、学部以外の面での不満はあったが、学部の教学に対する部分では目立った点はないと思われる。
----------------------------	--

2025年度実施 部局別自己点検報告書（共通教育機構）

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保証することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

I. 教学マネジメントに関する点検

I - (1) この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

○	はい →	会議体名称	共通教育機構会議、共通教育機構教員会議	議事録有無	○
	いいえ				

I - (2) 現状のDPの適切性（共通教育で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

○	はい →	会議体名称	共通教育機構会議、共通教育機構教員会議	議事録有無	○
	いいえ				
		確認・検証を行った結果、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば、具体的に記載してください。			変更なし

I - (3) 現状のDPIについて、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

なし

I - (4) DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

2:検証を行い、整合性を概ね確認できた	会議体名称	共通教育機構会議	議事録有無	○
---------------------	-------	----------	-------	---

I - (5) DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

旧カリキュラムの科目について変更はなかった。新カリキュラムの到達目標を新たに各部門長に作成してもらったが、科目運用前に科目担当者から修正依頼があり、その時点では応急処置的な修正を行った。今後は到達目標を確定させる前に科目担当者にも目を通してもらうことを検討している。

I - (6) DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

I - (5) の修正依頼の内容に沿うかたちで、今年度6～7月に実施している到達目標等検証のタイミングで当該科目の到達目標を改善する。改善予定時期：今年度7月下旬

I - (7) 教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

3:一定の理解・共有がされているが課題がある	回答根拠→	科目担当者においては、相関するDPについて●印がついていないDPは全く相関がないと認識されている可能性がある。
------------------------	-------	---

I - (8) DP,CP,APIに基づく共通教育について、各教員の理解を深めるために前年度～今年度5月末までに行った取り組みがあれば、具体的に記載してください。

I - (7)の「回答根拠」に記した事項について、共通教育機構会議および共通教育機構教員会議で説明した。（対象は部門長、および主な共通教育科目担当の専任・特任教員）

I - (9) DP,CP,APIに基づく共通教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

現時点では予定していないが、今年度6～7月に行うDP等の検証により質問や意見が寄せられ、情報共有・研修等の必要性があると判断した場合は対応する。

II. DPに基づいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与や卒業判定を行うということではなく、**アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと**を指します。

学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II - (1) アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したものに○を選択してください。

○	①新入生アンケート結果	○	②キャンパスライフアンケート結果		③授業評価アンケート結果（学部）	○	④卒業時アンケート結果
○	⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（学部/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）		⑧ルーブリック評価（卒業制作・論文）
	⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ		⑫休学・留年・退学（除籍）率
	⑬標準修業年限卒業率		⑭実就職率				
○	⑮その他 →	共通教育科目「大学入門」：ミニレポート③					

II - (2) 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

昨年5月の共通教育機構会議、さらに6月の共通教育機構教員会議でも④⑤を共有し、特に共通教育科目に係る項目（④は卒業時満足度「語学教育・語学支援」・授業役立ち度「数量的・統計的スキル」、⑤は「語学教育・語学力向上満足度」・授業役立ち度「語学力」）を取り上げ、意見交換を行った。数量的・統計的スキルについては、「ものづくりには役に立たないという意味ではないか」「3～4年生で統計学を使っていないため、役に立たないというアンケート結果になるのは当然のことで、卒業研究等で統計的スキルを活用できるよう指導すべきではないか」という意見が出された。語学（英語）については、学長指示事項として不満足の原因調査と改善策の提示が求められており、グローバル科目部門長が調査を実施し、対策を進めている。

⑤「大学入門」の学修成果については、学生に提示したミニレポート③により機構長を含めた授業担当者レベルで把握している。またミニレポート③のデータを各学部にもフィードバックした。

II - (3) 共通教育の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

回答根拠→ 共通教育科目の各担当教員に任せており、把握できていない。

II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

○	はい →	どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。	○	大学HP	○	学習のてびき2024（当該ページを記載してください。） →	p.	62-63
	いいえ		○	その他 →具体的に右に記載してください。（)				

II - (5) 学修成果の把握・検証および学生への説明について、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。

なし

II - (6) 学修成果の把握・検証および学生への説明について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

共通教育の全科目において学修成果を把握・検証することは難しいため、まずは必修科目の「大学入門」をその対象とすることにした。今年度秋から次年度「大学入門」に向けた準備を行うにあたり、「到達目標」の達成状況をより明確に把握できるよう、ミニレポート③の設問項目の見直し/改善を図る予定である。（改善予定時期：今年度12月～3月）

V. 学生アンケートに基づく点検

V - (1) 前年度卒業時アンケート結果のうち、自由記述以外のデータから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点	特になし
改善を要する点（予定時期も明記してください）	前年度のアンケート結果でも語学教育・語学支援（国内学生）の満足度が低いが、これについては前年度に学長より改善指示が出されており、グローバル科目部門長より改善策を盛り込んだ「学長指示事項に対する調査報告書」が6月24日に提示された。（主な改善内容については下記VI参照） なお、語学などの一部の科目を除いてアンケートからは共通教育科目の学修成果を把握できないため、授業評価アンケート結果を共通教育科目の分野ごとに取りまとめられないか、教務チームに相談中である。

V - (2) 前年度卒業時アンケート結果のうち、「自由記述」データから、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、学部の特徴として更に伸ばしたい点	特になし
改善を要する点（予定時期も明記してください）	英語上級クラスの学生より、課題の多さ・内容の難しさを訴えるコメントがあり、レジュメや提出物一覧の記載など、授業のシステムを分かりやすくしてほしいという要望も書き添えられている。課題の多さ・難しさについては、これまでから学生が教務に相談に来ていたとの情報があり、当該学生の要望も含めて何らかの対応が必要である。改善内容や実施時期についてはグローバル科目部門長/英語担当専任教員と今年度7月～9月末までには意見交換を行いたい。

VI. 学長改善指示に基づく点検

VI - (1) 前回自己点検報告等を受けて前年度に出された以下の学長指示に対し、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。

当該学長指示①→	語学教育の授業役立ち度に関する満足度が低い原因を調査し、対策を示してください。（2024年度中）
----------	--

国内学生の満足度が低い原因を把握するため、今年1-2月にグローバル科目部門長より2024年度卒業予定者14名(3～4年生)へのインタビュー調査が実施され、今年度第1回（4月）の共通教育機構会議で調査結果が報告された。原因は当時のコロナ禍におけるZoomによる遠隔授業（対人コミュニケーション機会の減少）、英語上級クラスの難易度・課題の負荷、正課外教育支援の不足などである。1つ目の原因は対面授業に戻っていることから既に解消しており、2つ目（上級クラスの難易度・課題の負荷）については、英語の専任コーディネーター教員がクラス担当教員と話し合った上で調整/配慮を行っていく予定である。また、3つ目（正課外教育支援の不足）については、今年度4月に言語学習支援室に「ランゲージサポート支部」を開設し、学習方法や課題のアドバイス、ネイティブ話者による英会話セッションなど多様な英語学習の機会/継続的に言語を使用する機会を提供しているほか、7月からはTOEIC対策講座の開設準備に入るなど、順次、改善策が進められていることを「学長指示事項に対する調査報告書」およびグローバル科目部門長への聞き取りにより確認した。

2025年度実施 部局別自己点検報告書（芸術研究科）

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

I. 教学マネジメントに関する点検

I - (1) この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

<input type="radio"/>	はい →	会議体名称	芸術研究科委員会	議事録有無	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	いいえ				

I - (2) 現状の研究科DPの適切性（所属研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

<input type="radio"/>	はい →	会議体名称	大学院教務特別委員会	議事録有無	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	いいえ				

確認・検証を行った結果、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば、具体的に記載してください。

大学院教務特別委員会に於いては、留学生の入学後の日本語能力向上がDPの適切な運用には必要であるという意見があった。博士後期課程の改革と関連して、芸術研究科長と教務委員とでDPについて意見交換し、それを修正することになった。

I - (3) 現状の研究科DPについて、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

芸術研究科博士後期課程の規程変更にもない、2025年度中に博士後期課程のDPを修正中である。

I - (4) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

2:検証を行い、整合性を概ね確認できた	会議体名称	大学院教務特別委員会	議事録有無	<input type="radio"/>
---------------------	-------	------------	-------	-----------------------

I - (5) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

大学院教務特別委員会に於いては、留学生の入学後の日本語能力向上がDP、CP、「授業の目的、到達目標」の達成には必要であるという意見があった。博士後期課程の改革と関連して、芸術研究科長と教務委員とで3つのポリシーについて意見交換し、それらの整合性を修正することになった。

I - (6) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

芸術研究科博士後期課程の規程変更にもない、2025年度中に博士後期課程のDP、CPを修正中である。

I - (7) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

1:非常に深く理解・共有されている	回答根拠→	アーティストないしは、高度専門職業人育成という目指す人材の育成について、新入生ガイダンス等で毎年説明している。
-------------------	-------	---

I - (8) DP,CP,APIに基づく教育について、各教員の理解を深めるために前年度～今年度5月末までに行った取り組みがあれば、具体的に記載してください。

2024年度FD研修会にて、「アーティスト育成という人材育成の目標」のために必要なものは何かをテーマに、ドイツのクンストラーハウスの取り組みを例に研修を行った。

I - (9) DP,CP,APIに基づく教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

今年度のFD研修会では、DP、CP、APとも関連する「制作と理論の融合」という目標について、他大学を例にFD研修会をおこなう計画である。

II. DPに基づいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与判定を行うということではなく、**アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと**を指します。

学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II - (1) アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全てに○を選択してください。

<input type="radio"/>	①各種入試結果	<input type="radio"/>	②キャンパスライフアンケート結果	<input type="radio"/>	③授業評価アンケート結果（研究科）	<input type="radio"/>	④修了時アンケート結果
<input type="radio"/>	⑤GPA分布状況	<input type="radio"/>	⑥必修科目修得状況（研究科/全学）	<input type="radio"/>	⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）	<input type="radio"/>	⑧休学・留年・退学（除籍）率
<input type="radio"/>	⑨実就職率						
<input type="radio"/>	⑩研究科別独自指標 → 展示発表会実績						

II - (2) 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

キャンパスライフアンケート・授業評価アンケート・修了時アンケートを研究科でも実施し、芸術研究科委員会で共有、検証した。展示発表会実績をつくらせるために、助成制度を設けた。

II - (3) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

1:十分かつ丁寧な説明をし、学生の深い理解を確認できた	回答根拠→	4月の研究科全体ガイダンスと芸術研究科ガイダンスで説明を行った。
-----------------------------	-------	----------------------------------

II - (4) DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

<input type="radio"/>	はい →	どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。	<input type="radio"/>	大学HP	<input type="radio"/>	学習のてびき2024（当該ページを記載してください。） →	p. 180-183,198-201
<input type="radio"/>	いいえ	その他 →具体的に右に記載してください。（ ）					

いいえ																													
II - (5) 学修成果の把握・検証および学生への説明について、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。																													
アセスメントプランに芸術研究科独自の学習成果の把握検証のための指標を設定した。																													
II - (6) 学修成果の把握・検証および学生への説明について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。(予定時期も明記してください)																													
規程変更に伴い、博士後期課程に関して、DPの修正、作品に関するループリックの作成が必要であり、今年度中に取り組む。																													
III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検																													
IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検																													
IV - (1) 各研究科における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？																													
はい →	<table border="1"> <tr> <td>会議体名称</td> <td>芸術研究科委員会</td> <td>議事録有無</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td colspan="4">確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>①新入生アンケート結果</td> <td><input type="radio"/></td> <td>②キャンパスライフアンケート結果</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>⑤GPS-Academic結果(思考力・経験等)</td> <td><input type="radio"/></td> <td>⑥必修科目修得状況(研究科/全学)</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>⑨GPA分布状況</td> <td><input type="radio"/></td> <td>⑩成績分布状況(専門/共通)</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>⑬実就職率</td> <td><input type="radio"/></td> <td>⑪学修ポートフォリオ</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>⑭その他(用いたものを全て記載してください) →</td> <td>(</td> <td>)</td> </tr> </table>	会議体名称	芸術研究科委員会	議事録有無	○	確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓				<input type="radio"/>	①新入生アンケート結果	<input type="radio"/>	②キャンパスライフアンケート結果	<input type="radio"/>	⑤GPS-Academic結果(思考力・経験等)	<input type="radio"/>	⑥必修科目修得状況(研究科/全学)	<input type="radio"/>	⑨GPA分布状況	<input type="radio"/>	⑩成績分布状況(専門/共通)	<input type="radio"/>	⑬実就職率	<input type="radio"/>	⑪学修ポートフォリオ	<input type="radio"/>	⑭その他(用いたものを全て記載してください) →	()
会議体名称	芸術研究科委員会	議事録有無	○																										
確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓																													
<input type="radio"/>	①新入生アンケート結果	<input type="radio"/>	②キャンパスライフアンケート結果																										
<input type="radio"/>	⑤GPS-Academic結果(思考力・経験等)	<input type="radio"/>	⑥必修科目修得状況(研究科/全学)																										
<input type="radio"/>	⑨GPA分布状況	<input type="radio"/>	⑩成績分布状況(専門/共通)																										
<input type="radio"/>	⑬実就職率	<input type="radio"/>	⑪学修ポートフォリオ																										
<input type="radio"/>	⑭その他(用いたものを全て記載してください) →	()																										
いいえ																													
IV - (2) 確認・検証の結果、学生の個別指導体制や方法について、前年度～今年度5月末までに改善や工夫、変更を行った点があれば具体的に記載してください。																													
特になし																													
IV - (3) 学生の個別指導体制や方法について、研究科の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。																													
個別あるいは領域全体で博士前期課程の学生に外部での展覧会を実施させたこと。																													
IV - (4) 学生の個別指導体制や方法について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。(予定時期も明記してください)																													
2025年度は、2024年度以上に個別あるいは領域全体で展覧会やコンペへの応募を奨励し、外部で発表する経験を積ませる。																													
V. 学生アンケートに基づく点検																													
V - (1) 前年度修了時アンケート結果から、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。																													
評価できる点、自部門の特徴として更に伸ばしたい点	プレゼンテーション力がついたという点。個別面談を通して作品と制作者との繋がりや作品をつくる意義について考えたり、作品をつくるだけでなく、外部での個展・グループ展にまでつなげることができた点。授業中のコミュニケーションを通じた日本語スキルのアップ。教員による手厚いサポート。																												
改善を要する点(予定時期も明記してください)	芸術研究科予算計画書の整理番号01、事業名「学生指導補助」には、研究費と呼んでいる「学生個別指導費及び研究補助費」と、外部での発表を活性化するための「展覧会補助・材料・備品費」があり、「学生個別指導費及び研究補助費」は、領域の授業予算及び研究費という位置付けである。領域によっては研究費に関して学生の不満があり、領域の授業予算として使うだけでなく、一定の額を学生の個人研究費として与えるよう今年度は改善する。																												

2025年度実施 部局別自己点検報告書（デザイン研究科）

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保証することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

I. 教学マネジメントに関する点検

I - (1) この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

○	はい →	会議体名称	デザイン研究科会議	議事録有無	○
	いいえ				

I - (2) 現状の研究科DPの適切性（所属研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

○	はい →	会議体名称	デザイン研究科会議	議事録有無	○
	いいえ				
		確認・検証を行った結果、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば、具体的に記載してください。		2025年5月29日のデザイン研究科委員会にてDPの内容が適切か、検討した。	

I - (3) 現状の研究科DPについて、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

「修了時アンケート【Q-3】京都精華大学大学院で育成するとされている以下5つの能力（ディプロマ・ポリシー）について、入学時と比較してどれくらい身についた実感がありますか。6段階のうち最も当てはまるものを選んでください。」の結果、現時点では大変身についている64%、身につけてる36%とほぼ適切であったことが確認されている。したがって、喫緊の改善は必要ないと思われる。ただし今後も丁寧に状況を確認したい。

I - (4) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

2:検証を行い、整合性を概ね確認できた		会議体名称	デザイン研究科会議	議事録有無	○
---------------------	--	-------	-----------	-------	---

I - (5) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

特になし

I - (6) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

特になし

I - (7) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

2:十分に理解・共有されている		回答根拠→	修了審査にて学生の学習到達レベルを確認できた。
-----------------	--	-------	-------------------------

I - (8) DP,CP,APIに基づく教育について、各教員の理解を深めるために前年度～今年度5月末までに行った取り組みがあれば、具体的に記載してください。

特になし

I - (9) DP,CP,APIに基づく教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

特に計画していない。

II. DPに基づいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与判定を行うということではなく、**アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと**を指します。

学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II - (1) アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の**学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したもの全て**に○を選択してください。

○	①各種入試結果		②キャンパスライフアンケート結果		③授業評価アンケート結果（研究科）	○	④修了時アンケート結果
	⑤GPA分布状況		⑥必修科目修得状況（研究科/全学）	○	⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）		⑧休学・留年・退学（除籍）率
	⑨実就職率						
	⑩研究科別独自指標（活用したものを全て記載）→ （ ）						

II - (2) 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

- ①各種入試結果：前年度と比較して、受験生のレベルが向上した。アセスメントプランにおける「専門分野における過去の研究制作の成果について知識と理解を有する者」の受験生が多くなった。
- ④授業評価アンケート結果（研究科）：修了時アンケート内で「1.専門分野と直結した職業を希望しており、専門に直結した職業への就職を決めた」と回答した学生が約60パーセントを占めた。
- ⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）：修了審査の際、アセスメントプランに基づくルーブリック評価を用いて審査した。

II-（3）研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

2:十分な説明をし、学生の一定の理解を確認できた	回答根拠→	デザイン研究科では、1年生前期の授業「デザイン理論特講」において、研究の方法を学ぶと同時に、評価基準がDP（学位授与の方針）に基づいたルーブリックを用いて評価していることを、説明している。なお、ルーブリックに示される内容は、初学者にとって、分かりやすいものとなっている。
--------------------------	-------	---

II-（4）DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

○ はい →	どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。	○ 大学HP	○ 学習のてびき2024（当該ページを記載してください。）→	p.	184-187
		○ その他 →具体的に右に記載してください。	デザイン理論特講の授業内で説明し、進級審査や中間審査、最終審査においてルーブリックを用いて、学生自身も発表者の審査を体験させている。		
○ いいえ					

II-（5）学修成果の把握・検証および学生への説明について、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。

アセスメントプランに芸術研究科独自の学習成果の把握検証のための指標を設定した。

II-（6）学修成果の把握・検証および学生への説明について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

今年度、指導教員と修了審査に携わる教員の分け方について、現状ではあまり審査の公平性が保てないのではないかという意見が出ている。この件を今後検討したい。

III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

IV-（1）各研究科における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

○ はい →	会議体名称		議事録有無	
	確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓			
	①新入生アンケート結果	②キャンパスライフアンケート結果	③授業評価アンケート結果（研究科）	④修了時アンケート結果
	⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	⑥必修科目修得状況（研究科/全学）	⑦単位修得状況（専門/共通）	⑧ルーブリック評価（修了制作・論文）
	⑨GPA分布状況	⑩成績分布状況（専門/共通）	⑪学修ポートフォリオ	⑫休学・留年・退学（除籍）率
	⑬実就職率			
	⑭その他（用いたものを全て記載してください）（ ）			

○ いいえ

IV-（2）確認・検証の結果、学生の個別指導体制や方法について、前年度～今年度5月末までに改善や工夫、変更を行った点があれば具体的に記載してください。

特になし

IV-（3）学生の個別指導体制や方法について、研究科の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

デザイン理論特講は、教員二人がかりで、研究の方法について一から指導している。（研究内容についてスライドによる発表、論文要旨の書き方を順序立てて指導している。）

IV-（4）学生の個別指導体制や方法について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

修了審査について、指導教員と違う教員が主審査員を担うという方針は徹底できたが、副指導の教員が担当し、主副の担当を入れ替えるだけの方法を取っている。より厳密な公平性を得るためにはどのような方法があるか、次回の研究科委員会から検討事項として方法を探る。

V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1）前年度修了時アンケート結果から、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、自部門の特徴として更に伸ばしたい点	自由記述の内容から、「教員が学生の考えを尊重している」、「自分の考えを超えたインスピレーションを与えてくれる」「作品のクオリティを上げる事ができた」などの評価を得た。自分で考える力を付けさせる方針が評価されたものと考え、今後もさらに伸ばしていきたい。
改善を要する点（予定時期も明記してください）	修了審査について、質を高めていく方法を検討している。方法については、全学研究科での聞き取りを参考にしたい。

2025年度実施 部局別自己点検報告書（マンガ研究科）

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

I. 教学マネジメントに関する点検

I - (1) この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

<input type="radio"/>	はい →	会議体名称	マンガ研究科委員会	議事録有無	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	いいえ				

I - (2) 現状の研究科DPの適切性（所属研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

<input type="radio"/>	はい →	会議体名称	マンガ研究科委員会	議事録有無	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	いいえ				
<input type="radio"/>	はい →	確認・検証を行った結果、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば、具体的に記載してください。		実技系において、前期から後期へのカリキュラムの連続性、理論系教員による論文指導の不足などの問題点が浮かび上がっており、検討を重ねている。	

I - (3) 現状の研究科DPについて、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

DPについては、特に具体的な改善点は提示されていない。

I - (4) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

3:検証を行い、整合性があるが改善の余地がある	会議体名称	マンガ研究科委員会	議事録有無	<input type="radio"/>
-------------------------	-------	-----------	-------	-----------------------

I - (5) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

特に博士後期課程において、業績審査の基準について、学則も含め検討を開始した。次年度も検討を継続する。

I - (6) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

カリキュラム構造上前記課程の実技系の学生が理論研究に従事する道が閉ざされており、研究者の育成を明言している後期課程へ進学するルートが存在しない。これについてはカリキュラム構造の根本的な更新によって対応する予定である（2026年度または2027年度新入生から適用予定）。

I - (7) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

1:非常に深く理解・共有されている	回答根拠→	それらの検討課題を研究科内で、十分に協議しているため、教員間の理解を得られているものと考えている。
-------------------	-------	---

I - (8) DP,CP,APIに基づく教育について、各教員の理解を深めるために前年度～今年度5月末までに行った取り組みがあれば、具体的に記載してください。

教員間のコミュニケーションツールとしてslackを有効活用している。定期的にオープン討論会を開催し、学生、教員間の研究の共有とコミュニケーションを図っている。ゼミが主催する展覧会やイベントへの参加を、積極的に奨励している。

I - (9) DP,CP,APIに基づく教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

FD研修の有効活用を予定している。

II. DPに基づいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与判定を行うということではなく、**アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと**を指します。

学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II - (1) アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したものに○を選択してください。

<input type="radio"/>	①各種入試結果	<input type="radio"/>	②キャンパスライフアンケート結果	<input type="radio"/>	③授業評価アンケート結果（研究科）	<input type="radio"/>	④修了時アンケート結果
<input type="radio"/>	⑤GPA分布状況	<input type="radio"/>	⑥必修科目修得状況（研究科/全学）	<input checked="" type="radio"/>	⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）	<input type="radio"/>	⑧休学・留年・退学（除籍）率
<input type="radio"/>	⑨実就職率						
<input type="radio"/>	⑩研究科別独自指標（活用したものを全て記載）→	（ ）					

II - (2) 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

①:日本語能力を満たしていること、これまでの業績をポートフォリオで確認し、指導に活かしている。⑦:2024年度までは新旧のルーブリック評価が混在していたが、どちらの評価も共通して判断することができた。

II - (3) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

2:十分な説明をし、学生の一定の理解を確認できた	回答根拠→	学期始めのオリエンテーションで直接説明を行っている。
--------------------------	-------	----------------------------

II-（4）DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

○	はい →	どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。	○	大学HP	○	学習のてびき2024（当該ページを記載してください。） →	p.	188~197,202 ~205
			○	その他 →具体的に右に記載してください。 (Slackを使った伝達)				
	いいえ							

II-（5）学修成果の把握・検証および学生への説明について、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。

アセスメントプランにマンガ研究科独自の学習成果の把握検証のための指標を設定した。学生への説明は4月のオリエンテーションで実施している。

II-（6）学修成果の把握・検証および学生への説明について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

特になし。

III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

IV-（1）各研究科における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

○	はい →	会議体名称		議事録有無			
		確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓					
		①新入生アンケート結果		②キャンパスライフアンケート結果		③授業評価アンケート結果（研究科）	④修了時アンケート結果
		⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）		⑥必修科目修得状況（研究科/全学）		⑦単位修得状況（専門/共通）	⑧ルーブリック評価（修了制作・論文）
		⑨GPA分布状況		⑩成績分布状況（専門/共通）		⑪学修ポートフォリオ	⑫休学・留年・退学（除籍）率
		⑬実就職率					
		⑭その他（用いたものを全て記載してください）（					
	いいえ						

IV-（2）確認・検証の結果、学生の個別指導体制や方法について、前年度～今年度5月末までに改善や工夫、変更を行った点があれば具体的に記載してください。

特になし。各ゼミや個々の教員に委ねられている。

IV-（3）学生の個別指導体制や方法について、研究科の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

オープン討論会の開催、各ゼミでの個別の対応。

IV-（4）学生の個別指導体制や方法について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

各ゼミ間、教員間での横の連絡がもう少しあったほうが良いと考えられる。今年度中から実施していきたい。

V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1）前年度修了時アンケート結果から、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、自部門の特徴として更に伸ばしたい点	学生の満足度が高い結果が出ている。
改善を要する点（予定時期も明記してください）	教材や設備の更新が必要である。留学生が大多数を占めるため、日本人学生との交流が少ない。教材や設備などは今年度から順次改善していきたいが、留学生の比率はコントロールできない。

2025年度実施 部局別自己点検報告書（人文学研究科）

自己点検は、前年度の大学の教育・研究活動の検証・改善を行うことで質を保證することを目的とした、大学による主体的・恒常的な取組です。
点検対象は2024年4月～2025年度5月末までの教育・研究活動です。

I. 教学マネジメントに関する点検

I - (1) この自己点検を、部局内の会議体を通じて行うなど、部局執行部の取組として実施していますか？

○	はい →	会議体名称	人文学研究科委員会	議事録有無	○
	いいえ				

I - (2) 現状の研究科DPの適切性（所属研究科で学生が修得できる知識、技能、態度などが明確か）について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（はい、いいえ）。

○	はい →	会議体名称	人文学研究科委員会	議事録有無	○
	いいえ				
		確認・検証を行った結果、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば、具体的に記載してください。		2024年度6月の研究科委員会にて、研究科長から「2024年度における4研究科（修士課程・博士前期課程）の3ポリ状況（対照表）」が提示され、改善点・修正点がないかを確認した（結果、特に改善点・修正点はなかった）。	

I - (3) 現状の研究科DPについて、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

特になし。

I - (4) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに検証を行いましたか？結果もふまえ、該当するものを選んでください（5段階）。

2:検証を行い、整合性を概ね確認できた	会議体名称	人文学研究科委員会	議事録有無	○
---------------------	-------	-----------	-------	---

I - (5) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、前年度～今年度5月末までに変更や改善を行った点があれば、具体的に記載してください。

2024年度6月の研究科委員会にて、研究科長から「2024 人文カリキュラム：DP、マトリクス、到達目標の相関表」が提示され、授業担当者およびシラバス作成者の視点から、改善点・修正点がないかの確認依頼があった。この検証結果は個別の科目担当者のシラバスに反映されたことを確認した。

I - (6) 研究科DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（改善予定時期も明記してください）

引き続き、科目担当者に対して、DP、CP、および「授業の目的、到達目標」の間の整合性を意識したシラバスの作成を依頼する予定（次年度のシラバス作成に先立つ2025年11月頃）。

I - (7) 研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、現在各教員の理解度はどの程度ですか？（5段階）

2:十分に理解・共有されている	回答根拠→	上記のとおり、研究科委員会にて相関表の提示と検証がなされているため。
-----------------	-------	------------------------------------

I - (8) DP,CP,APIに基づく教育について、各教員の理解を深めるために前年度～今年度5月末までに行った取り組みがあれば、具体的に記載してください。

上記の取り組み以外には特になし。

I - (9) DP,CP,APIに基づく教育について、各教員の理解を深めるために今年度以降予定している取り組みがあれば、具体的に記載してください。

上記の取り組みを継続する以外には特に予定なし。

II. DPに基づいた学修成果の把握に関する点検

※学修成果の把握とは、単に大学として単位の認定や学位の授与判定を行うということではなく、**アセスメント・テストやルーブリック等を用いた客観的な測定方法も含め、学生が何を習得し何ができるようになったのかについての把握を1年次から卒業にかけて行うこと**を指します。

学修成果としては、知識・理解、技術、汎用能力、態度・志向性などをバランスよく把握することが必要とされています。

II - (1) アセスメントプランに設定された以下指標のうち、前年度～今年度5月末までに学生の**学修成果の把握・検証に実際に活用・参照したものを全て**に○を選択してください。

<input type="checkbox"/>	①各種入試結果	<input type="checkbox"/>	②キャンパスライフアンケート結果	<input type="checkbox"/>	③授業評価アンケート結果（研究科）	<input type="checkbox"/>	④修了時アンケート結果
<input type="checkbox"/>	⑤GPA分布状況	<input type="checkbox"/>	⑥必修科目修得状況（研究科/全学）	<input checked="" type="checkbox"/>	⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）	<input type="checkbox"/>	⑧休学・留年・退学（除籍）率
<input type="checkbox"/>	⑨実就職率						
<input type="checkbox"/>	⑩研究科別独自指標（活用したものを全て記載）→ （ ）						

II - (2) 前項目で選択した各項目をどのように活用したのかについて、選択した項目と対照させて具体的に記載してください。

研究科の学生数が少ないため、上記の項目のうち、学生をマスとして捉える傾向の強い指標はあまり役立てることでできなかったが、④修了時アンケート結果と⑦ルーブリック評価（修了制作・論文）は、個別に学生のDPにもとづいた学修成果を把握するために活用した。特に前者については、京都精華大学人文学研究科の学生としての自覚と学修がAPならびにCPの側面で実現できているかを、また後者についてはDPの側面で実現できているかを把握するために活用した。

II-（3）研究科の教育目標（どのような人材の育成を目指しているか）、DP、CP、シラバスの「授業の目的、到達目標」の間の整合性について、学生への説明はどの程度されていますか？（5段階）

1:十分かつ丁寧な説明をし、学生の深い理解を確認できた	回答根拠→	2024年4月2日に「人文学研究科M1・M2 合同ガイダンス」を開催するとともに、1年生必修科目「人文学合同演習」および2年生選択科目「人文学特殊講義1」において担当教員が説明を行ったため。
-----------------------------	-------	---

II-（4）DPと学修成果の測定方法、測定時期は、学生にとって分かりやすく明示されていますか？

○ はい →	どこで説明されていたかを右で○を選択、記載してください。	○ 大学HP	○ 学習のてびき2024（当該ページを記載してください。）→	p.	176-8
		○ その他	（上記「人文学研究科M1・M2 合同ガイダンス」において年度初めに「2025年度大学院修士/博士前期課程_審査スケジュール」を配布するとともに、学生の参加を義務付けている「修士論文中間報告会」（2024年度は10月26日に開催）にて研究科長から告知された）		
○ いいえ					

II-（5）学修成果の把握・検証および学生への説明について、前年度～今年度5月末までに改善や変更を行った点があれば具体的に記載してください。

アセスメントプランに人文学研究科独自の学習成果の把握検証のための指標を設定した。

II-（6）学修成果の把握・検証および学生への説明について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

特になし。

III. APに基づいた学生募集・入学者選抜の制度や運営体制の適切な整備、入学者選抜の公正な実施に関する点検

IV. 学生支援体制の整備、学生支援の適切な実施に関する点検

IV-（1）各研究科における学生の個別指導体制や方法の適切性について、前年度～今年度5月末までに確認・検証を行いましたか？

○ はい →	会議体名称	人文学研究科委員会	議事録有無	○	
確認・検証に用いたデータ全てに○を選択してください↓					
	①新入生アンケート結果	②キャンパスライフアンケート結果	③授業評価アンケート結果（研究科）	○	④修了時アンケート結果
	⑤GPS-Academic結果（思考力・経験等）	⑥必修科目修得状況（研究科/全学）	⑦単位修得状況（専門/共通）		⑧ルーブリック評価（修了制作・論文）
	⑨GPA分布状況	⑩成績分布状況（専門/共通）	⑪学修ポートフォリオ		⑫休学・留年・退学（除籍）率
	⑬実就職率				
○	⑭その他（用いたものを全て記載してください）（毎月の留学生学習状況調査）				
○ いいえ					

IV-（2）確認・検証の結果、学生の個別指導体制や方法について、前年度～今年度5月末までに改善や工夫、変更を行った点があれば具体的に記載してください。

特になし。

IV-（3）学生の個別指導体制や方法について、研究科の特徴に合っている、または効果的であった取組があれば、具体的に記載してください。

M1生必修科目「人文学合同演習」およびM2生選択科目「人文学特殊講義1」を合同クラスで運営しており、M1生が個別の指導教員の枠を超えて、M2生の修士論文の作成過程を知ることができるようにした。

IV-（4）学生の個別指導体制や方法について、今年度以降に改善が必要な課題があれば、具体的に記載してください。（予定時期も明記してください）

特になし。

V. 学生アンケートに基づく点検

V-（1）前年度修了時アンケート結果から、自部門の教育内容を中心に、評価できる点、改善を要する点をそれぞれ記載してください。

評価できる点、自部門の特徴として更に伸ばしたい点	2023年度の修了時アンケートの回答をもとに、大学院生室（院生控室）をコモンズとして充実させた。
改善を要する点（予定時期も明記してください）	特になし。